

松戸市立博物館年報

第33号 — 令和7年度 (2025)



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

は じ め に

令和7年度の展示は、当館主催の展示会として初の試みとなる戸定歴史館との連携特別展「まつど×とくがわ－昭武・武定の生きた明治・大正・昭和－」と、館蔵資料展「誕生・結婚・死の儀礼－人生の始まり方 終い方－」、博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」の3件でした。連携特別展では聖徳大学短期大学部保育科や（一社）松戸市観光協会・松戸市観光梨園組合連合会と新たに連携事業を行いました。館蔵資料展では展示にちなんだ葬式饅頭を作るワークショップや、オリジナルグッズ「人生儀礼焼菓子」を販売し、好評を得ました。

また、当館を会場とした松戸市総務部総務課主催「松戸市平和祈念展 未来へとつなぐ平和」展では、広島市・長崎市の貴重な被爆資料の展示や語り部のお話をとおして、戦後80年の節目の夏に、平和を深く考えていただく機会を提供できました。

このほか学習支援事業は例年と同様に各種講座・講演会を開催し、プレイルームでは月毎に季節に合わせたイベントなど、多岐にわたる事業を展開しました。

常設展示リニューアルは、令和7年8月22日の松戸市議会全員協議会での「松戸市財政運営の基本方針」を受け、一旦停止となりました。しかしリニューアルに向けた調査・研究は続けております。一例を挙げれば、リニューアルの中核施設「子どもミュージアム」を見据えた体験プログラムも試行しました。

空調工事は予定どおり着工して、令和8年1月から8月末まで全館休館となりました。休館中も各種講座・講演会を開催するなど、活動は継続しております。

日頃から「博物館友の会」をはじめ、多くの皆様のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。引き続き市民の皆様に愛される博物館を目指してまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和8年9月1日

松戸市立博物館

I	沿革	3
II	施設の概要	5
III	事業の概要	6
1	常設展示	6
(1)	総合展示	6
(2)	主題展示	9
(3)	野外展示	9
2	資料・企画展示	10
(1)	連携特別展「まつど×とくがわ－昭武・武定の生きた明治・大正・昭和－」	10
(2)	館蔵資料展「誕生・結婚・死の儀礼－人生の始まり方 終い方－」	16
(3)	松戸市平和祈念展「未来へとつなぐ平和」	22
(4)	博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」	26
3	学習支援	29
(1)	講演会	29
(2)	講座	30
(3)	体験学習	31
(4)	ミュージアムシアター・プレイルーム	32
(5)	館内公開	34
(6)	ガイドツアー（常設展示解説）	34
(7)	情報提供	34
4	連携事業	38
(1)	博学連携プログラム	38
(2)	その他	43
5	調査・研究	43
(1)	研究員の活動	43
(2)	学芸員の活動	44
6	資料の収集と利用	46
(1)	資料の収集	46
(2)	博物館資料の貸し出し	48
(3)	博物館資料の特別利用	48
(4)	資料の燻蒸等	51
7	令和7年度 企画展・館蔵資料展アンケート結果	52
(1)	連携特別展「まつど×とくがわ－昭武・武定の生きた明治・大正・昭和－」	52
(2)	館蔵資料展「誕生・結婚・死の儀礼－人生の始まり方 終い方－」	53
(3)	博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」	54
IV	組織と運営	55
1	組織	55
2	歳出予算	55
3	事務事業	55
4	各種委員会等	56
5	博物館利用者数の統計	57
6	来訪者	59
V	条例・規則	60
	職員名簿	

I 沿革

年 月	事 項
昭和39年12月	松戸市公民館に郷土資料室設置（50㎡）
昭和46年 4 月	（財）松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。（227.47㎡）
昭和49年11月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。（330㎡）
昭和56年 3 月 5 月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。 松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想調査会条例制定松戸市美術館構想調査会発足〔委員 7 名〕
昭和58年 8 月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想について答申（18回開催）
昭和59年 4 月 6 月 11月	社会教育部内に美術館準備室設置 松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）建設調査会発足〔委員 10 名〕松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和60年 3 月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申（7回開催）
昭和63年 9 月 10月 11月 12月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置〔委員 15 名〕 第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館（仮称）建設決定美術館準備室に博物館担当学芸員を配属 松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足〔委員 10 名〕 建設用地を総合公園「21 世紀の森と広場」内と決定松戸市立郷土博物館設立懇談会発足〔委員 8 名〕
平成元年 3 月 4 月 8 月 11月 12月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定 文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定 総合公園「21 世紀の森と広場」内に建設位置決定 松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足〔委員 8 名〕 展示基本設計を（株）乃村工藝社に委託 建築設計事務所を（株）佐藤総合計画に決定
平成 2 年 2 月 3 月 6 月 9 月	建築基本設計を（株）佐藤総合計画に委託 建築実施設計を（株）佐藤総合計画に委託 展示実施設計を（株）乃村工藝社に委託 博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成 3 年 9 月	展示工事及び展示物製作を（株）乃村工藝社に委託、工事・製作着手
平成 4 年 1 月 3 月 4 月 6 月 7 月 9 月 12月	外構工事着手 植栽工事着手 美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置 建築工事、外構工事竣工 野外展示工事着手、植栽工事竣工 松戸市立博物館条例制定（館名「松戸市立博物館」に決定） 野外展示工事竣工
平成 5 年 1 月 3 月 4 月 10月	展示工事竣工 松戸市立博物館管理運営規則制定 松戸市立博物館開館（29 日） 初代岩崎卓也館長就任 開館記念展（期間：4 月 29 日から 6 月 13 日まで）「松戸写真館—カメラがとらえた松戸の人々」を開催 松戸市立博物館協議会発足〔委員 10 名〕
平成 6 年 4 月 6 月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管 館蔵「幸田貝塚出土品」266 点 国重要文化財指定（28 日付）
平成 7 年 6 月	博物館登録 千葉県教育委員会 平成 7 年 6 月 9 日 登録番号第 30 号 博物館資料数 4,385 点（歴史資料 1,686 点、考古資料 2,650 点民俗資料 49 点

年 月	事 項
平成 8 年10月	博物館等資料選定評価委員会発足〔委員 5 名〕
平成 9 年 3 月	博物館開館 5 周年記念特別展示（期間：3 月 20 日から 5 月 11 日まで） シルクロードとガンダーラ」展を開催
平成10年 4 月	博物館事業として「自然史」を加える。（松戸市立博物館条例改正） 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。（松戸市立博物館条例改正）
平成14年 6 月	松戸市立博物館友の会発足（16 日）
平成15年10月	松戸市制施行 60 周年記念・松戸市立博物館開館 10 周年記念特別展示（期間 10 月 11 日から 11 月 30 日まで）「川の道 江戸川」展を開催
平成20年 4 月 4 月 10月	初代岩崎卓也館長退任 2 代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称 松戸市立博物館開館 15 周年記念特別展示（期間：10 月 11 日から 12 月 7 日まで） 「縄文時代の東・西」展を開催
平成21年 5 月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手
平成23年 3 月 4 月	東日本大震災発生（11 日） 観覧料「中学生以下は無料」となる。（松戸市立博物館条例改正）
平成24年 3 月 4 月	2 代関根孝夫館長退任 3 代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行 70 周年記念・松戸市立博物館開館 20 周年記念特別展示（期間：10 月 5 日から 11 月 24 日まで） 「松戸の発掘 60 年史－市内の遺跡を再検討－」展を開催
平成26年12月	松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」を条例化し、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」を制定（平成 27 年 4 月 1 日施行）
平成27年 2 月	松戸市史 上巻（改訂版）原始・古代・中世』を刊行
平成30年 4 月	松戸市立博物館管理運営規則第 5 条の観覧料の免除等の（1）「大学生及び大学生以下の者を引率する者」を追加、（3）「身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」の市内要件を撤廃
平成30年 9 月	松戸市制施行 75 周年記念・松戸市立博物館開館 25 周年記念特別展示（期間：9 月 22 日 から 11 月 25 日まで）「ガンダーラ－仏教文化の姿と形－」展を開催
平成31年 3 月	松戸市制施行 75 周年・松戸市立博物館開館 25 周年企画展示（期間：3 月 9 日から 3 月 24 日まで）「日本の太鼓・世界の太鼓」展を開催。21 世紀の森と広場に所在する 21 世紀の森と広場公園管理事務所、森のホール 21、および当館による初の連携企画。
令和元年10月	消費税率引き上げに伴う観覧料改定
令和 2 年 4 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（3 月 2 日から 3 月 31 日まで）
令和 4 年 3 月 4 月	まつどデジタルミュージアム開設 3 代望月幹夫館長退任 4 代渡辺尚志館長就任 組織改編により、松戸市教育委員会生涯学習部文化財保存活用課博物館となる。
令和 5 年 4 月 9 月	「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」策定 松戸市制施行 80 周年・松戸市立博物館開館 30 周年記念企画展示（期間：9 月 23 日から 11 月 12 日まで）「あの日の“まつど”－写真でふりかえる 150 周年－」展を開催
令和 7 年 3 月 7 月	博物館登録 千葉県教育委員会 令和 7 年 3 月 22 日 登録番号第 30 号 戸定歴史館との連携特別展「まつど×とくがわ－昭武・武定の生きた明治・大正・昭和－」（期間：7 月 12 日から 8 月 31 日まで）を開催
令和 8 年 1 月	博物館の空調工事のため、全館休館（1 月 1 日から 8 月 31 日まで）

Ⅱ 施設の概要

建築の概要

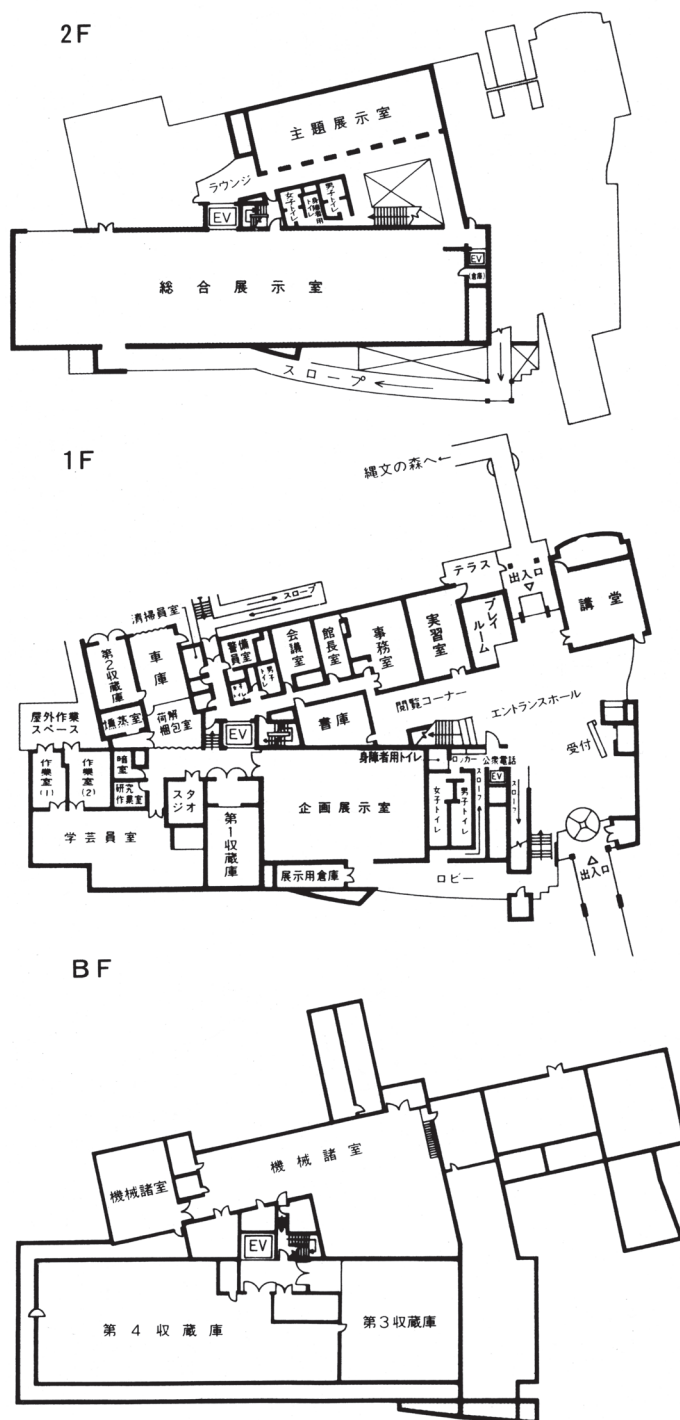
- 1) 敷地面積 7,795.81㎡ 2) 建築面積 2,709.92㎡
 3) 延床面積 5,446.73㎡ 1階 2,515.17㎡／2階 1,542.92㎡／地下1階 1,388.64㎡
 4) 階 数 地下1階 地上2階 5) 構 造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(展示室 PRC 梁構造)
 6) 高 さ 14.4m

注) 博物館周辺環境との調和をはかるために高さを15m以内に、また地下水などの水脈保全のため地下部分についても10m以内に制限して建設を行った。

[各室の面積]

区分	室名	室数	階層	面積 (㎡)
展示部門	総合展示室	1	2	873.40
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小 計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.20
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸庫	1	1	31.32
	小 計			1,070.21
教育普及部門	講堂	1	1	124.88
	実習室	1	1	70.97
	プレイルーム	1	1	51.60
	閲覧コーナー	-	1	78.80
	倉庫	-	1	45.66
	小 計			371.91
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.30
	研究作業室	1	1	16.99
	小 計			300.97
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	-	B1	575.49
	管理共有部分	-	1	424.54
	小 計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	-	1	333.12
	ロビー	-	1	106.32
	スロープ	-	-	196.91
	共有部分	-	-	379.53
	小 計			1,015.88
	合 計			5,390.44

[各階の平面図]



Ⅲ 事業の概要

松戸市立博物館設置の目的・基本的性格

(1) 設置の目的

平成4年9月24日制定の「松戸市立博物館条例」第2条に、「本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。」と明記されているが、その理念の淵源は、昭和58年8月31日付け「松戸市美術館（郷土資料館及び古文書館を含む）構想調査会答申」までさかのぼる。博物館（当時は郷土資料館と呼称）を設置する目的は、以下のように明確に示されている。

松戸市は、長期構想を策定し、21世紀を展望した都市像として、『自然との調和』『人間尊重』を基調とし、市民連帯の下に心のふれあう豊かな都市を目指しています。市民が、国際的視野に立ち、将来を展望しつつ、自らのまちに限りない愛着と誇りをもち、自ら郷土の歴史をふまえ、文化的な生活都市への転換を図るためには、市民の活力と行政の条件整備が一体となった創造的活動が必要です。文化活動は市民の一人ひとりが個性を伸ばし、創造性を培い、自己の向上を図る自発的な行為です。本市においても、その活動は年々活発に行われ、市民はより充実した活動の機会を強く求めています。これらの機運に応えるとともに、豊かな情操と郷土愛を培う文化を未来社会へ継承する使命を果たすため造形美術部門、郷土資料部門、文書部門の機能を有する各文化施設が必要です。

(2) 基本的性格

上記の「設置の目的」から導き出される博物館の「基本的性格」は、以下のように集約される。

- ・市民生活に密着した親しみやすい特色ある郷土資料館とする。
- ・郷土の過去の姿を正しく理解し、未来を展望するために、松戸市域を中心とする原始・古代から現代に至るまでの歴史を概観することができる場とする。
- ・人類的視野にたって、松戸を中心とする地域の風土の中で生きた先人の生活と文化を明らかにしてゆく。
- ・縄文時代を中心とする考古資料をもとに、原始社会の生活文化がどのように展開したかを明らかにする。
- ・教育普及活動を重視し、生涯学習の一環として、市民が気軽に積極的に参加できる自己学習と交流の場とする。
- ・松戸市に関係する考古・歴史・民俗資料の保存に努める。
- ・収集・保存・展示・教育普及活動等をよりよいものにするため、調査・研究活動を重視する。

これらの「設置の目的」と「基本的性格」は今後も松戸市立博物館の上位の目的として堅持する。

1 常設展示

(1) 総合展示

ゾーン1 人類の登場

■ 松戸のあけぼの

旧石器時代の展示空間は常設展示室の入り口部分、展示全体の導入部であるので、短時間で旧石器時代に関心を抱いてもらえるように、見てわかる展示を心がけた。特に実資料（石器）の展示については、

単に「石」の羅列にならないように、3つの展示スペース相互に関連をもたせた。

ゾーン2 狩りと採集のムラ

■ 縄文人の暮らし

近年の相次ぐ発掘調査の成果は、これまでの縄文時代の生活に対する私達のイメージを一変させている。ここでは、遺跡から出土する動物・植物遺存体を手がかりにして、ムラの外での生業活動の復元を行い、貝の花貝塚の復元模型を中心にムラの中での日常生活の復元を行っている。

■ ムラのうつりかわり

縄文時代は安定した食糧供給に支えられて、人々は定住を始め、やがてムラを営むようになった。この縄文時代草創期から晩期にいたるムラの盛衰と生活基盤の変化を、幸田貝塚・子和清水貝塚・貝の花貝塚など、市内の遺跡の出土資料等を使用して、明らかにしようと試みている。

■ 人々の交流

縄文時代の人々は、近隣だけでなく、遠く離れた地域の人々とも交流していたことが、遺跡から出土する土器・石器などによってわかる。ここでは、松戸市内から出土した石器石材の産地推定を通して、松戸を中心とした縄文時代の人々の交流圏や、石材の入手経路について、展示を行っている。

ゾーン3 稲作社会の誕生

■ 米作りの暮らし

弥生時代になって中国大陆や朝鮮半島から多くの人々が日本に到来し、様々な新しい技術をもたらした。とりわけ、古墳時代の変化を松戸市域の出土資料を用いて展示している。

■ 古墳の出現

前方後円墳という共通の形の墓が全国で築かれた古墳時代における松戸市域の特質を、河原塚古墳群や栗山古墳群などの出土遺物を用いて展示を行っている。

ゾーン4 下総国のはじまり

■ 古代の松戸

古代の松戸周辺は下総国西端の葛飾郡に含まれていた。下総国の国府は市川市国府台周辺にあったと考えられており、この時期の松戸市域は政治的求心力のある国府の近郊地域として位置づけられる。

ゾーン5 武士と民衆

■ 千葉氏と高城氏

武士が政権の座に就いた中世、鎌倉時代の松戸市域では千葉氏の一族が登場する。本拠とした風早郷を名乗った風早氏である。室町から戦国時代にかけては高城氏が勢力を伸ばした。戦国後期に大谷口小金城を本拠とした高城氏は、東葛飾地域最大の領主となった。高城氏は戦国大名間の争いの渦中で、次第に後北条氏の支配に属するようになり、やがて豊臣秀吉の天下統一により滅亡を余儀なくされた。関連する文書資料および小金城出土資料などから同氏の当該期における位置づけを解説している。

■ 中世人の生と死

中世の人々は現世のみならず来世での幸福を強く願った。市内に残存する資料からその具体的な信仰を探った。板碑は供養碑としてとくに関東地方で流行した。市内の武蔵型板碑の出土地を見ると、多くは小さな谷が入り組んだ台地の縁辺部であるところから、中世人の生活空間が推量される。また関東中世史の研究に欠かせない「本土寺過去帳」所載の地名と一致する場合も多い。過去帳はその存在自体が人々の往生願望の現れであるが、ほかにも合戦記事、多くの職人の名などが見える。展示においてはその豊富な内容の一端を解説している。

ゾーン6 町場と村

■ 近世の村

近世社会に入ったところの松戸市域はほとんどが農村で、幕末でも松戸宿・小金宿を除き53の村（新

田村を含む）に分かれていた。近世の領主は、村を行政単位として年貢などを徴収したり、宗門改めや五人組制度等によって農民を支配し、村では名主・組頭などの村役人を代表者として生産・生活を営んでいた。当時の農村生活の楽しみには、庚申講などでの共同飲食や、お伊勢参りなど寺社参詣の旅があった。

■ 宿場と河岸

松戸市域には水戸道中松戸宿と小金宿の2つの宿場町があった。幕府の交通政策によって公的に設定された宿は、単なる交通の拠点としてでなく、周辺の流通・経済の中心地として発展した。特に江戸川岸に河岸場が発達した松戸宿は、陸上交通だけでなく、江戸川と利根川の河川交通・流通の中継基地という性格が加わり、また江戸川の対岸金町に幕府が関所を設けたので旅籠も多く、下総北西部の重要な町場に発展した。

■ 小金牧と御鹿狩

下総台地には古代から馬の牧場が設置され放牧が行われていた。江戸幕府はこの台地に直轄の牧場、小金牧・佐倉牧を開設するが、大半が小金牧に含まれた市域は、牧を管理する野馬奉行役宅や金ヶ作役所が設けられ、牧支配の中核地だった。また、徳川将軍家は「御鹿狩」と呼ばれた大規模な狩りを小金原で計4回行ったが、その舞台は現在の松飛台周辺だった。この狩りには、小金原の地元はもちろん武蔵・上総など4か国から農民が勢子として動員されたが、めったにない娯楽的要素もあった。

ゾーン7 都市へのあゆみ

■ 松戸 1868 ～ 1960

近代を迎えた松戸市域は葛飾県・小菅県、印旛県をへて千葉県に編入される。松戸には郡役所、郵便局、警察、裁判所が置かれ、東葛飾郡の行政の中心となった。19世紀末から20世紀初頭にかけては常磐線、流鉄、東武野田線（いずれも現在の名称）が市内を通過し、交通網の整備がすすむ。やがて戦争の時代にいたると多くの市民が戦場へ駆り出され、あるいは銃後の生活を強いられた。戦後の松戸市は常盤平団地に象徴されるように、首都圏の住宅供給地として、大きくその景観、産業構造を変貌させている。このような近現代での松戸の変化を絵年表を中心に、市域の変遷図、土地利用変遷図などの資料を用い、日本史全体の流れを考慮しつつ解説している。

■ 下谷・谷津・台

松戸市が現在のような姿になったのは、昭和30年～40年代の高度経済成長期に大規模な宅地開発や工業団地の造成が行われたことが大きい。この時期には人口の社会増が大きく、市民の生活も全体的な景観も大きく変貌した。ここでは、下谷・谷津・台というフォークタームから、市域を江戸川低地（下谷）、下総台地の開析谷周辺（谷津）、下総台地の平坦面（台）の3種類に分け、大きな変貌を遂げる直前の昭和30年代前半の景観模型をもとに、地形、水利、生産形態、住まい方などを例にとって先人の人々の生活の場がどのようなものであったのかを対比的に説明している。

■ 常盤平団地の誕生

松戸市は昭和30年代の半ばから、その大半を占めていた近郊農村から首都圏の住宅都市へと急激にその姿を変貌させていくが、その先駆けとなったのが常盤平団地であった。この団地の住民の大半が首都圏の企業に勤めるサラリーマンの家庭で、住宅都市を目指していた松戸市の新しい市民像を代表していた。この展示では、あるサラリーマン家庭の昭和37年の暮らしが当時の生活財によって原寸大の2DKのなかに復元されている。

(2) 主題展示

主題1 考古学と科学の眼

総合展示室で復元されている4000年前の縄文時代に存在した森はどのようにして復元されたのか、また、縄文時代の海岸線をどのようにして知ることが出来たのか。あるいは、文字などのなかった遙か昔の年代がなぜ分かるのか、といった主に自然科学的な手法を用いた歴史の復元方法を紹介している。

主題2 虚無僧寺一月寺

江戸時代の小金宿には、青梅鈴法寺とともに普化宗総本山だった一月寺があり、全国に知られていた。中国唐代の普化禅師を宗祖とする禅宗の一派だった普化宗と、その僧侶である虚無僧が、近世前期に成立して近世中期に最盛期を迎えたこと、また、映像によって虚無僧の姿や生活の歴史や、江戸時代虚無僧に独占された尺八の歴史・音楽などを紹介している。

主題3 二十世紀梨の誕生

果物のナシの代表品種「二十世紀梨」は、現在鳥取県での栽培が有名であるが、実は明治時代に現在の松戸市内で松戸覚之助少年に偶然発見され、次第に全国で栽培されたのであった。そのため、現在市内に「二十世紀が丘」の地名が残るが、この展示室では発見者松戸覚之助のことや、発見以前（江戸時代）から盛んであった下総東葛地域のナシ栽培の歴史、また映像により現在の市内梨園での二十世紀梨の開花から収穫までの栽培の様子を紹介している。

主題4 三匹獅子舞

松戸市内の3地区で演じられている獅子舞は、ひと組の踊り手が3人からなる「三匹獅子舞」と呼ばれるものである。シシ（獅子）が登場する芸能は日本国内ではなじみ深いものであるが、一口にシシといっても、頭の形・演技方ともにさまざまな違いがあることは意外に知られていない。ここでは山路興造氏の所説をもとに、三匹獅子舞の特徴、一人立ちの獅子舞と二人立ちの獅子舞の差異、絵画史料にみる一人立ちの獅子舞と風流踊、といった観点から三匹獅子舞の系譜と地域的広がりを映像を用いて解説している。

(3) 野外展示

竪穴住居復元

博物館北側の台地に、市内の遺跡から発掘された住居跡の資料に基づいて、縄文時代中期の竪穴住居3棟を原寸復元した。常時、竪穴住居1棟を開放し、住居内を自由に見学できるようになっている。

2 資料・企画展示

(1) 連携特別展「まつど×とくがわー昭武・武定の生きた明治・大正・昭和ー」

◆展示意図

水戸徳川家最後の藩主徳川昭武は、松戸の戸定ヶ丘に邸宅を建設し、明治17年（1884）に移住した。昭武・武定（昭武2男、松戸徳川家初代当主）をはじめとする戸定邸の人びとは、周辺地域と関わり合いながら、新しい環境での生活を営んだ。戸定歴史館と市立博物館の初の連携展として、戸定歴史館は「地域に生きた華族」の視点から、松戸町や近隣農村の人びととの関わりに注目し、市立博物館では「華族の生きた地域」の視点から、昭武がカメラに収めた市域の原風景を紹介した。

関連企画として戸定歴史館・戸定邸・博物館にスタンプラリーを設置し、すべてのスタンプを集めた方にはトートバッグをプレゼントするなど、市の歴史や歴史施設を多くの方々に知ってもらい、郷土への愛着意識の醸成の一助となるべく開催した。



◆主 催 松戸市戸定歴史館（企画担当 大沼 大晟）

松戸市立博物館（企画担当 林 幸太郎）

◆後 援 千葉テレビ放送株式会社・北総線沿線地域活性化協議会・（公財）松戸市文化振興財団
（一社）松戸市観光協会

◆協 力 京成電鉄株式会社・流鉄株式会社

◆会 期 令和7年7月12日（土）～8月31日（日）44日間

◆観覧者数 6,590人（戸定歴史館 2,907人・博物館 3,683人）

◆観 覧 料 有料 一般150円・高大生100円・中学生以下無料 /

三館共通券 一般620円・高大生300円

博物館共通券 一般370円・高大生180円 / 戸定共通券 一般320円・高大生160円

◆関連企画【参加費無料】

1. 学芸員講演会

演 題 「戸定邸からみる“まつど”の近代」

開催月日 令和7年7月27日（日）

講 師 大沼 大晟（戸定歴史館学芸員）・林 幸太郎（博物館学芸員）

参加人数 65人

2. 歴史を語る

演 題 「維新の草莽 金原忠蔵とその慰霊・顕彰」

開催月日 令和7年8月10日（日）

講 師 岩立 将史氏（学習院大学史料館助教）

参加人数 56人

3. スタンプラリー

内 容 戸定邸、戸定歴史館、博物館に設置のスタンプを全て集めるとオリジナルトートバッグがもらえる。

開催月日 展示期間中

参加人数 632人

4. ワークショップ 「オリジナル手ぬぐいを作ろう！」

内 容 昭武や武定などデザインのスタンプを使って、オリジナル手ぬぐいを作る。

開催月日 ①令和7年8月16日（土）博物館・②8月17日（日）戸定歴史館

講 師 鄙里 沙織氏（木工アーティスト・東京藝術大学美術学部テクニカルインストラクター）

参加人数 ①15人 ②14人

5. ワークショップ 「ひろがれ！こどものまち～かめの地図と、梨の木のしたで！～」

内 容 松戸市の形を模した“かめの地図”に、子どもたちがオリジナルの家や建物を配置する“まちづくり”や梨の手遊び歌などを通じて、松戸の魅力を体験した。

開催月日 ①令和7年8月10日（日）戸定歴史館・②8月11日（月・祝）博物館

講 師 聖徳大学短期大学部保育科まつどソング研究グループ

参加人数 ①21人 ②31人



オリジナルグッズ
「狩獵服姿の昭武くん」
アクリルキーホルダー



戸定歴史館・博物館 初！コラボ展示記念
クリアファイル
(デザイン協力：聖徳大学短期大学部保育科まつどソング研究グループ 一郷小聖氏)

◆展示資料

プロローグ 徳川昭武・武定親子と戸定邸

★印＝パネル展示

No.	資料名	年代	作成(含撮影)→受取	形態	所蔵
1	戸定邸日誌	1902年(明治35)	戸定邸	冊	戸定歴史館
2	〔徳川昭武・武定〕	1891年(明治24)9月	江崎禮二	写真	戸定歴史館
3	「松戸庭園ニ於テ毬遊之図」★	1898年(明治31)5月8日	徳川慶喜	写真	戸定歴史館

1. 昭武・武定のくらした松戸町

No.	資料名	年代	作成(含撮影)→受取	形態	所蔵
4	千葉県管内全図(3版)	1903年(明治36)4月	多田屋書店	舗	市立博物館
5	「松戸の市」★	1907年(明治40)1月	徳川昭武	写真	個人
6	〔人力車に乗る徳川家の人々〕★	1911年(明治44)4月11日		写真	戸定歴史館
7	〔水戸道中松戸宿絵図〕	(江戸時代後半)	松戸宿名主 九兵衛 他4名	舗	市立博物館
8	関東市町定日案内	(江戸時代中期以降)	吉田屋小吉	舗	市立博物館
9	郵便報知新聞 第596号	(1875年)	月岡芳年／熊谷庄七	錦絵	市立博物館
10	茨城県土浦町商店繁栄一覧	1887年(明治20)6月28日	浅草阿部川町 廣瀬光太郎	舗	市立博物館

11	大日本職業別明細図之内 千葉県	1925年(大正14)5月	東京交通社	舗	市立博物館
12	東葛飾郡松戸町全図	1920年(大正9)3月	中村勝 製図	舗	市立博物館
13	千葉県松戸町及明村鳥瞰★	1930年(昭和5)7月	松井天山	舗	成田山仏教図書館
14	千葉県松戸町鳥瞰図★	1937年(昭和12)6月	松井天山	舗	成田山仏教図書館
15	旧松戸宿本陣模型	2007年(平成19)	渋谷文雄氏 制作	模型	市立博物館
16	水戸御簾中様御下国ニ而御昼休下宿割帳	文久3年(1863)3月7日	伊藤	横	市立博物館
17	水戸様御上京に付御供之御面々御帰国御昼休御宿割帳	文久3年(1863)4月17日	本陣 伊藤宗蔵	横	市立博物館
18	伊藤家系図書(控)	1883年(明治16)4月19日	下総国葛飾郡松戸駅 伊藤宗蔵→荒川百造	冊	市立博物館
19	戸定邸日誌	1898年(明治31)	戸定邸	冊	戸定歴史館
20	戸定邸日誌「松戸日録」	1884年(明治17)	戸定邸	冊	個人
21	戸定邸日誌	1888年(明治21)	戸定邸	冊	戸定歴史館
22	戸定邸日誌	1904年(明治37)	戸定邸	冊	戸定歴史館
23	〔東葛飾郡役所〕★	(1914～1915年)	吉野誠	写真	流山市立博物館
24	東葛飾郡松戸駅近傍村落(迅速測図)(復刻版)	1880年(明治13)7月測図	陸軍参謀本部陸地測量部	舗	市立博物館
25	〔松戸町役場〕★	(1914～1915年)	吉野誠	写真	流山市立博物館
26	〔松戸警察署〕★	(1914～1915年)	吉野誠	写真	流山市立博物館
27	〔松戸警察署長 松谷近知〕★	1910年(明治43)11月6日	吉野誠	写真	流山市立博物館
28	〔松戸郵便局員〕★	(1915年)	吉野誠	写真	流山市立博物館
29	戸定邸日誌	1894年(明治27)	戸定邸	冊	戸定歴史館
30	〔辞令〕(三等郵便局長)	1888年(明治21)12月10日	逓信省→米井由次郎	状	市立博物館
31	履歴書	1892年(明治25)9月26日	米井由次郎→千葉郵便電信局長 早水済	冊	市立博物館
32	〔電信開明式祝辞〕	1894年(明治27)2月10日	東葛飾郡長 田中一介	状	市立博物館
33	〔辞令〕(松戸郵便電信局長)	1894年(明治27)2月11日	逓信局→三等郵便電信局長 米井由次郎	状	市立博物館
34	戸定邸日誌	1892年(明治25年)	戸定邸	冊	戸定歴史館
35	記(酒等代金受取)	1920年(大正9)2月25日	松戸町行徳屋 宮崎初太郎→上	状	市立博物館
36	明治四十五年略暦	1912年(明治45)	大膳屋立澤商店	状	市立博物館
37	松戸町酒類并醬油販売竹内清兵衛	1894年(明治27)8月	加藤芳雄 画	状	市立博物館
38	換舌(醬油改正并値下ヶ売払広告)	1883年(明治16)12月	東葛飾郡新作村 本店小金屋 竹内清三郎 他2名	状	市立博物館
39	〔魚屋丸丁商店前の出征式〕★	1943年(昭和18)8月		写真	市立博物館
40	〔高橋製粉工場〕★	(1914～1915年)	吉野誠	写真	流山市立博物館
41	〔大膳屋立澤商店〕★	(1914～1915年)	吉野誠	写真	流山市立博物館
42	〔株式会社葛飾食品市場〕★	1936年(昭和11)12月11日	椎名宗康 編	写真	市立博物館
43	駅用留	1877年(明治10)10月	松戸駅	冊	市立博物館
44	〔金町製瓦株式会社〕★	1905年(明治38)	徳川昭武	写真	個人
45	〔日本煉瓦伊原回漕部集合写真〕★(大正)			写真	伊原清良氏
46	法被「栄吉船」	(昭和)		衣類	市立博物館
47	薬舗売薬規則	1876～1886年		綴	市立博物館
48	請売々薬買入帳	1911年(明治44)1月	松戸町松戸 平野英太郎	冊	市立博物館
49	請受売薬売渡帳	1911年(明治44)1月	松戸町松戸 平野英太郎	冊	市立博物館
50	金銭判取帳	1928～1931年	奥富薬局	小横	市立博物館
51	テニス戦術	1924年(大正13)7月	横井春野 著	冊	市立博物館
52	〔小泉歯科医院〕★	(1919年)		写真	市立博物館

53	〔岡医院〕★	(1907年以降)		写真	市立博物館
54	〔二丁目倶楽部前軍装集合写真〕	(昭和戦前)		写真	市立博物館
55	記(松戸分校建築費寄附金請取)	1901年(明治34)	寄附者総代 大貫精三郎→八柱村 秋谷惣左衛門	状	個人
56	〔私立松戸中学校開校につき案内状〕	1906年(明治39)5月17日	山下寅吉→八柱村和名ヶ谷 秋谷仁右衛門	状	個人
57	〔私立松戸中学校入学願書〕	1906年(明治39)5月24日	秋谷縫亮→私立松戸中学校長勘解由小路資承	状	個人
58	仮領収証(松戸中学校維持費寄附)	1906年(明治39)8月19日	私立松戸中学校→八柱秋谷仁右衛門	状	個人
59	〔松戸分校第1回卒業生〕★	1904年(明治37)3月19日		写真	青木源内氏
60	〔松戸分校生徒集合写真〕★	1904年(明治37)3月29日		写真	青木源内氏
61	〔松戸中学校〕★	1905年(明治38)12月	吉野誠	写真	流山市立博物館
62	千葉県立千葉中学校松戸分校全図★	1903年(明治36)7月	千葉県立千葉中学校 発行	図	国立国会図書館

2. 昭武とめぐる!“まつど”の農村

No.	資料名	年代	作成(含撮影)→受取	形態	所蔵
63	戸定邸日誌	1906年(明治39年)	戸定邸	冊	戸定歴史館
64	〔田舎家〕★	1906年(明治39)9月29日	徳川昭武	写真	戸定歴史館
65	唐箕(とうみ)			民具	市立博物館
66	手箕(てみ)			民具	市立博物館
67	篩(ふるい)			民具	市立博物館
68	臼(うす)			民具	市立博物館
69	筵(むしろ)			民具	市立博物館
70	くるり棒(ぼう)			民具	市立博物館
71	籠(かご)			民具	市立博物館
72	〔踏車三極〕★	1906年(明治39)6月9日	徳川昭武	写真	戸定歴史館
73	〔主水の踏車〕★	1909年(明治42)4月	徳川昭武	写真	戸定歴史館
74	踏車(ふみぐるま)			民具	市立博物館
75	鋤(くわ)			民具	市立博物館
76	田舟(たぶね)	(1955～1965年)		民具	市立博物館
77	〔古ヶ崎農家〕★	1906年(明治39)2月25日	徳川昭武	写真	戸定歴史館
78	〔稲苗植〕★	1908年(明治41)	徳川昭武	写真	戸定歴史館
79	〔古ヶ崎〕★	1908年(明治41)6月16日	徳川昭武	写真	戸定歴史館
80	ぼっち笠			民具	市立博物館
81	〔馬耕〕★	1908年(明治41)5月	徳川昭武	写真	戸定歴史館
82	馬鋤(まんが)			民具	市立博物館
83	〔田舎道〕★	1906年(明治39)11月18日	徳川昭武	写真	戸定歴史館
84	背負梯子			民具	市立博物館
85	野良着	(1955～1965年)		衣類	市立博物館
86	股引	(1955～1965年)		衣類	市立博物館
87	〔船名一人別取調書上等船関係綴〕	1974年(明治7)	七右衛門新田	綴	市立博物館
88	米俵装標準	1911年(明治44)9月	東葛飾郡農会	状	市立博物館
89	〔古ヶ崎肴屋〕★	1909年(明治42)4月	徳川昭武	写真	戸定歴史館
90	〔江戸川ノ鮎子猟(1)〕★	1908年(明治41)5月	徳川昭武	写真	戸定歴史館
91	〔江戸川の漁師(3)〕★	1907年(明治40)5月19日	徳川昭武	写真	戸定歴史館
92	〔江戸川の小船〕★	1906年(明治39)8月19日	徳川昭武	写真	戸定歴史館

93	魚籠（びく）	民具 市立博物館
94	ドウ（ウナギド）	民具 市立博物館
95	ドウ	民具 市立博物館
96	テンガイ（四ツ手網）	民具 市立博物館

3. “まつど”の梨づくりと戸定邸

No.	資料名	年代	作成(含撮影)→受取	形態	所蔵
97	〔岡田政重日記〕★	1911年(明治44)	岡田政重	横帳	岡田豊氏
98	「直子・温子洋服同列」★	1907年(明治40)11月17日	徳川昭武	写真	戸定歴史館
99	戸定邸日誌	1909年(明治42)	戸定邸	冊	戸定歴史館
100	〔松戸覚之助〕★	(大正～昭和)		写真	松戸雅男氏
101	〔錦果園の二十世紀原本〕★	1935年(昭和10)9月5日		写真	市立博物館
102	戸定邸日誌	1907年(明治40)	戸定邸	冊	戸定歴史館
103	戸定邸日誌	1910年(明治43)	戸定邸	冊	戸定歴史館
104	「錦果園」表札	(大正～昭和)	錦果園	木札	松戸雅男氏
105	「東葛市郡種苗商業組合員」表札	(昭和)		木札	松戸雅男氏
106-1	葡萄梨解説摘用并ニ苗樹定価表	(1904年以降)	錦果園	状	松戸雅男氏
106-2	葡萄種類説明 付定価表	1902年(明治35)9月12日	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-3	葡萄と梨種類解説	1910年(明治43)11月10日	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-4	改訂 葡萄と梨種類解説	1912年(大正元)10月15日	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-5	営利栽培 果樹種類解説 附営業案内	1920年(大正9)9月	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-6	営利栽培 果樹種類解説 附営業案内	1923年(大正12)9月30日	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-7	〔ぶどう・梨型板〕	(大正)	錦果園	木札	松戸雅男氏
106-8	果樹解説	1924年(大正13)8月	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-9	果樹解説	1925年(大正14)8月30日	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-10	果樹解説 営業案内	1926年(大正15)9月5日	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-11	果樹解説 営業案内	1927年(昭和2)9月5日	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-12	昭和四年度 果樹解説	(1929年)	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-13	果樹解説(昭和8・9年度 五十年記念特別号)	1934年(昭和9)5月15日	錦果園	冊	松戸雅男氏
106-14	果樹解説(昭和10・11年度 廿世紀祭特売号)	1935年(昭和10)11月5日	錦果園	冊	松戸雅男氏
107	〔二十世紀梨化粧箱ラベル〕	(1938～1943年)	錦果園	状	松戸雅男氏
108	〔二十世紀梨商標〕	(1938～1943年)	錦果園	状	松戸雅男氏
109	〔苗木送付用荷札〕	(1943年以降)	錦果園	札	松戸雅男氏
110	〔二十世紀へ1等賞牌授与の賞状〕		一府五県連合園芸共進会 総裁 伊東巳代治 他1名	賞状	松戸雅男氏
111	〔二十世紀へ銀牌授与の賞状〕	1928年(昭和3)12月	大礼記念京都大博覧会総 裁 久邇宮邦彦王 他2名	賞状	松戸雅男氏
112	〔博覧会・共進会のメダル〕	(大正～昭和)		メダル	松戸雅男氏
113	〔皇太子殿下へ伝献の二十世紀披 露につき通知書〕	1921年(大正10)9月	東宮大夫男爵濱尾新 →千葉県知事折原巳一郎	状	松戸雅男氏
114	〔果物恵与への礼状〕	(近代)9月12日	野砲兵第三旅団副官 田中勇記→松戸覚之助	状	松戸雅男氏
115	乍恐以書付奉申上候(農間稼取調)	(江戸時代)	秋山村	冊	市立博物館
116	梨子仕切通	明治3年(1870)6月	丁子屋彦八 →秋山村 太兵衛	横	市立博物館

117	梨子之通	1873年(明治6)7月14日	丁子屋彦八 →秋山村 太兵衛	横	市立博物館
118	八柱誌	1932年(昭和7)12月	岡田忠信 編	冊	市立博物館
119	八柱村道路認定路線図	(大正)		軸	市立博物館
120	〔校友会員名簿送付懇願の書簡〕	(1935年)	錦果園→(県立高等園芸 学校)校友会事務所	状	松戸雅男氏
121	〔二十世紀 包装紙〕	(昭和)	千葉高等園芸学校農場	状	松戸雅男氏
122	〔八雲 包装紙〕	(昭和)	千葉高等園芸学校農場	状	松戸雅男氏
123	農事月報 第84号	1906年(明治39)1月	耕牧園	冊	市立博物館
124	営業案内 第16号 (明治42年春季)	1908年(明治41)12月	日本種苗株式会社	冊	市立博物館
125	営業案内 種と苗(大正2年春季)	1912年(大正元)12月	東京園芸株式会社	冊	市立博物館
126	錦果園農場全景★	1921年(大正10)8月	錦果園	写真	松戸雅男氏
127	錦果園記念玻璃室と苗園の一部★	1910年(明治43)11月	錦果園	写真	松戸雅男氏
128	御来園歓迎★	(1931年)	錦果園	写真	松戸雅男氏
129	〔高等園芸学校〕	(1914~1915年)	吉野誠	写真	流山市立博物館
130	カゴ(六貫目)	(昭和)		カゴ	松丸清氏
131	カゴ(四貫目)	(昭和)		カゴ	松丸清氏
132	カゴ	(昭和)		カゴ	松丸清氏
133	〔梨出荷用ラベル〕(風味冠絶)	(昭和戦後)	松戸市園芸連	状	石橋弘之氏
134	〔梨出荷用ラベル〕(千葉梨)	(昭和戦後)		状	石橋弘之氏
135	〔梨出荷用ラベル〕(松戸名産)	(昭和戦後)		状	石橋弘之氏
136	〔二十世紀 包装紙〕	(昭和戦後)	千葉県果樹組合連合会	状	石橋弘之氏
137	〔梨の収穫作業〕★	1963年(昭和38)	松戸市広報課	写真	市立博物館
138	〔梨の袋掛け作業〕★	1963年(昭和38)	松戸市広報課	写真	市立博物館
139	広報まつど172号 「観光ナシ園造成を計画」	1964年(昭和39)5月20日 号	松戸市役所	状	市立博物館
140	広報まつど175号 「梨のもぎ取り即売」	1964年(昭和39)8月20日 号	松戸市役所	状	市立博物館
141	〔梨狩り〕	1964年(昭和39)	松戸市広報課	写真	市立博物館
142	〔長十郎梨の選別作業〕	(1960年代)		写真	高橋治氏

エピローグ それからとこれからの“まつど”

(2) 館蔵資料展「誕生・結婚・死の儀礼ー人生の始まり方 終い方ー」

◆展示意図

人が誕生し、成人となり結婚し、老い、死を迎え、先祖にまつられるまでの人生における様々な儀礼に関する民俗資料を展示した。数々の儀礼を通し、地域社会で培われてきた人生の姿を伝える一方で、現在行われている結婚式や成人式などの様子も紹介した。

また、子どもに分かり易いように漫画デザインを用いたパンフレットを作成した。さらに展示テーマ「誕生・結婚・死」にまつわる「人生儀礼焼菓子」をオリジナルグッズとして販売し、“人生の格言くじ”を付けるなど大人から子どもまで楽しめる企画を盛り込んだ。



◆主催 松戸市立博物館（企画担当 青木 俊也・米村 創）

◆後援 千葉テレビ放送株式会社・北総線沿線地域活性化協議会・（公財）松戸市文化振興財団・（一社）松戸市観光協会

◆協力 京成電鉄株式会社・流鉄株式会社

◆会期 令和7年9月20日（土）～11月3日（月・祝）39日間

◆観覧者数 5,796人

◆観覧料 無料

◆関連企画【参加費無料】

1. 学芸員講演会

演題 「死者の『魂』の行方」

開催月日 令和7年10月12日（日）

講師 青木 俊也（博物館学芸員）

参加人数 71人

2. 歴史を語る

演題 「人生儀礼の世界」

開催月日 令和7年10月25日（土）

講師 長沢 利明氏（元法政大学講師）

参加人数 44人

3. 土曜解説会

内容 担当学芸員による展示解説

開催月日 令和7年9月20日（土）、9月27日（土）、10月4日（土）、10月11日（土）、10月18日（土）、11月1日（土）

参加人数 92人

4. ワークショップ「お葬式の饅頭を作ろう！」

内容 最近あまり見かけなくなったお葬式で配られるお饅頭を作って、学芸員から展示の解説を聞いた。

開催月日 令和7年10月26日（日）

講師 竹内 三代治氏（大正堂 和菓子職人）



ワークショップ「お葬式の饅頭を作ろう！」作業風景（左）と完成したお饅頭（右）



人生儀礼うえるかむサブレ



人生儀礼くじびき



人生儀礼焼菓子

◆展示資料

No.	資料名称	備考
①誕生の儀礼		
1	真間山弘法寺 手児奈霊堂 御札	
2	水天宮の腹帯	
3	腹帯	
4	腹帯の包み紙	
5	農家の間取り模型（20分の1）	
6	産湯（写真）	
7	赤ちゃんの沐浴（写真）	
8	ミツメのぼた餅（レプリカ）	
9	重箱	
10	ミツメのぼた餅（写真）	
11	ミツメのぼた餅（写真）	
12	オクルミ（復元）	
13	麻の葉の産着（復元）	
14	名付け（写真）	
15	男児宮参り祝い着	
16	女児宮参り祝い着	
17	宮参り（写真）	※個人提供
18	食い初め（写真）	※個人提供
19	食い初め（写真）	
20	食い初め用食器	
21	雛人形	
22	初節供の雛飾り（写真）	※個人提供
23	初節供の雛飾り（写真）	※個人提供
24	五月節供内飾り	
25	鯉幟（真鯉・緋鯉）	
26	五月節供の幟	
27	女児三歳の年祝いの祝い着	
28	男児年祝いの祝い着	
29	女児三歳年祝い（写真）	※個人提供
30	女児三歳年祝い（写真）	※個人提供
31	男児五歳年祝い（写真）	※個人提供
32	女児七歳年祝い（写真）	※個人提供
②結婚の儀礼		
33	角樽	
34	結納品九品目揃（台付）	
35	嫁の入家儀礼（写真）	※個人提供
36	酒差し	
37	三三九度の盃	
38	夫婦の盃（写真）	※個人提供
39	祝言の列席者の盃事（写真）	※個人提供
40	夫婦の盃（写真）	※個人提供
41	披露宴（写真）	※個人提供
42	オチツキのぼた餅（レプリカ）	
43	振り袖の嫁とモーニングの婿（写真）	※個人提供
44	振り袖の嫁（写真）	※個人提供
45	振り袖の嫁（写真）	※個人提供

46	嫁入り衣装（一式）	
47	嫁入り衣装（一式） 振り袖	
48	嫁入り衣装（一式） 丸帯	
49	嫁入り衣装（一式） 宮迫	
50	嫁入り衣装（一式） 扇子	
51	嫁入り衣装（一式） 櫛と笄	
52	嫁入り衣装（一式） 簪	
③死の儀礼		
53	臨終（写真）	※個人提供
54	枕団子（レプリカ）	
55	枕飯（レプリカ）	
56	あの世への旅支度 死装束・草履・杖	
57	葬式用祭壇一式	
58	葬式の祭壇（写真）	※個人提供
59	葬式の花輪（写真）	※個人提供
60	魂送りのハヤウマ（写真）	※個人提供
61	四十九餅の俵（復元）	
62	四本旗（復元）	
63	昭和 30 年代の葬式写真	※(有)ヤブサキ葬儀社提供
64	棺を乗せる輿	
65	棺を喪家から出す	
66	喪家から出る住職	
67	葬列の旗を持つ人	
68	葬列の住職	
69	葬列の位牌と枕飯を持つ人	
70	本堂の前を廻る葬列	
71	本堂の前を廻る葬列	
72	棺を本堂に納める	
73	本堂に納められた棺	
74	輿	
75	天蓋	
76	龍頭	
77	六道（ロクドウ）の装束	
78	シハライ餅（レプリカ）	
79	タチビのぼた餅（レプリカ）	
80	新盆の高燈籠（復元）	
81	新盆の高燈籠（写真）	
82	新盆の高燈籠（写真）	
83	新盆の白提灯	
84	軒下につるした新盆の白提灯（写真）	
85	新盆の旅支度	
86	新盆の盆棚（写真）	
④現代の儀礼		
87	出生届（一般普及用）	
88	出生届（ご当地出生届）	
89	臍の緒を入れた小箱①	※個人提供
90	臍の緒を入れた小箱②	※個人提供
91	宮参り用の着物（白羽二重）	※個人提供
92	白羽二重を着た赤ちゃん（写真）	※個人提供

93	熨斗扇子	※個人提供
94	宮参り（写真）	※個人提供
95	祝い着（写真）	※個人提供
96	祝い着	※個人提供
97	食い初め（写真）	※個人提供
98	食い初め（写真）	※個人提供
99	紅白の誕生餅（写真）	※個人提供
100	誕生餅を背負う（写真）	※個人提供
101	将来占い（写真）	※個人提供
102	将来占い（写真）	※個人提供
103	七五三①（写真）	※個人提供
104	七五三②（写真）	
105	七五三③（写真）	※個人提供
106	七五三④（写真）	※個人提供
107	七五三⑤（写真）	※個人提供
108	七五三 3歳の女兒着物	※個人提供
109	七五三 7歳の女兒着物	※個人提供
110	七五三 千歳飴	
111	松戸市 二十歳の成人式①（写真）	
112	松戸市 二十歳の成人式②（写真）	
113	松戸市 二十歳の成人式③（写真）	
114	松戸市 二十歳の成人式④（写真）	
115	髪飾り	※個人提供
116	書籍『オトナの常識！』	
117	案内書「松戸市 二十歳の成人式」	
118	パンフレット「松戸市 二十歳の成人式」	
119	白無垢	※個人提供
120	色打掛	※個人提供
121	婚姻届	
122	婚姻届（ご当地婚姻届）	
123	結婚指輪と容器	※個人提供
124	結婚記念写真の台紙	
125	結婚式 紅差しの儀（写真）	※個人提供
126	結婚式 誓いの言葉（写真）	※個人提供
127	結婚式 指輪の交換（写真）	※個人提供
128	結婚式 結婚証明書へのサイン（写真）	※個人提供
129	結婚式 披露宴（写真）	※個人提供
130	メッセージボード	※個人提供
131	電報①	※個人提供
132	電報②・リラックマ人形	※個人提供
133	霊柩車（外装部と内部）（写真）	
134	自宅における祭壇（写真）	※個人提供
135	自宅の縁側から出棺（写真）	※個人提供
136	霊柩車（写真）	※個人提供
137	棺（写真）	※個人提供
138	葬式（写真）	※個人提供
139	死化粧（写真）	※個人提供
140	別れ花（写真）	※個人提供
141	火葬場での別れ（写真）	※個人提供

142	死亡届	
143	死産届	
144	死胎埋火葬許可証交付申請書・松戸市火葬場（霊柩自動車）使用許可申請書	
145	松戸市火葬場使用許可申請書	
146	妊婦用の鏡	※個人提供

(3) 松戸市平和祈念展「未来へとつなぐ平和」

◆展示意図

松戸市では、「世界平和都市宣言」に基づき、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を祈念して平和事業を実施している。被爆者の平均年齢は85歳を超え、戦争を体験した人も減る中で、当時起こったことを次の世代へ継承していくことが急務となっている。広く市民に戦争の恐ろしさや平和の大切さ・命の尊さをあらためて考える機会を提供するため、戦後80年・世界平和都市宣言40周年を迎える節目の年に展覧会を開催した。

◆主 催 松戸市総務部総務課（博物館担当 林 幸太郎）

◆会 期 令和7年11月18日（火）～11月30日（日）12日間

◆観覧者数 2,062人

◆観 覧 料 無料

◆関連企画【参加費無料】

1. 平和語り部

開催月日 令和7年11月22日（土）

講 師 児玉 三智子氏（日本原水爆被害者団体協議会事務局次長）

参加人数 63人

2. 広島市原爆 VR ゴーグル体験会

内 容 VR ゴーグルを着け、原爆投下時から現代までの映像を体験視聴（広島市から借用）

開催月日 会期中

参加人数 385人

3. 平和の集い 特別版

内 容 平和大使の活動報告や映画「この世界の片隅に」の上映、市立中学校による合唱

場 所 松戸市民劇場ホール

開催月日 令和7年11月30日（日）

参加人数 212人



◆展示資料

1 戦前（松戸市）

★印＝パネル展示

No.	資料名	年代	宛先	所蔵
1	陸軍工兵学校正門前の行進 ★	（昭和）		松戸市立博物館
2	杉田源兵衛工兵准尉結婚記念写真 ★	昭和14年		松戸市立博物館
3	陸軍工兵学校絵葉書	（大正～昭和）		松戸市立博物館
4	陸軍工兵准尉正装一式	（昭和）		松戸市立博物館
5	陸軍工兵学校空中写真 ★	昭和19年6月14日		松戸市立博物館
6	旧水戸街道春雨橋付近 ★	昭和10年頃		松戸市
7	坂川風景（角町付近） ★	昭和初期		松戸市
8	坂川風景（古ヶ崎小僧弁天） ★	昭和初期		松戸市
9	坂川風景（松戸神社わき） ★	昭和初期		松戸市
10	樋野口・女体神社遷宮式 ★	昭和初期		松戸市
11	投げ餅作りの様子 ★	昭和初期		松戸市
12	小金尋常高等小学校尋常科の男子組（左）と女子組（右） ★	昭和3年		松戸市
13	消防車 ★	昭和12年頃		松戸市
14	電車開通祝賀（開通を祝した芝居） ★	昭和初期		松戸市
15	電車開通祝賀（開通を祝した仮装行列） ★	昭和初期		松戸市
16	焼き釜	昭和10年頃		松戸市
17	マンノー石鹸	昭和10年頃		松戸市
18	書類カバン	昭和11～20年		松戸市
19	写真	昭和4年頃		松戸市
20	食缶（海軍仕様）	昭和10年頃		松戸市
21	医療用器具	昭和10年頃		松戸市
22	水筒	昭和10年頃		松戸市
23	双眼鏡	昭和10年頃		松戸市
24	国防婦人の歌	昭和20年頃		松戸市
25	愛国婦人会 通常会員の証書	昭和10年頃		松戸市
26	愛国婦人会会員証（バッチ）	（昭和）		松戸市
27	紀元二千六百年祝典記念章	昭和15年		松戸市
28	支那事変従軍記章	昭和15年		松戸市

2 戦中（松戸市）

No.	資料名	年代	宛先	所蔵
29	市民会館わきの踏切 ★	昭和19年頃		松戸市
30	農家 ★	昭和13年		松戸市
31	農商学校の合宿での食事風景 ★	昭和14年		松戸市
32	農商学校の生徒たち ★	昭和14年		松戸市
33	高木村民戦時生活実践要項		高木村	松戸市立博物館
34	特別回収買上伝票	昭和18年7月26日	金属回収統制株式会社 →酒井市郎右エ門 他7名	松戸市立博物館
35	愛国百人一首（かるた）	昭和18年頃		松戸市
36	国民服（甲号）上着	（昭和15年制定）		松戸市立博物館
37	出征 ★	昭和18年4月		松戸市
38	日章旗	昭和18年頃		松戸市
39	出征幟	（昭和）	子と清水牧場一同	松戸市立博物館
40	写真	昭和18年頃		松戸市
41	写真	昭和18年頃		松戸市
42	軍隊手帳他	昭和20年頃		松戸市

43	松戸飛行場の完成	昭和15年	松戸市
44	松戸飛行場	昭和18年	松戸市
45	婚姻願	昭和16～20年頃	松戸市
46	履歴書	昭和11～20年頃	松戸市
47	飛行用の革製帽子	昭和10年頃	松戸市
48	飯ごう	昭和19年頃	松戸市
49	軍服	昭和18年頃	松戸市
50	伝単「日本国民諸氏」No. 2088	昭和20年	米国戦時情報局 松戸市立博物館
51	松戸尋常高等小学校の戦没者慰霊祭	(昭和戦中)	松戸市
52	松戸市民の皆様へ！	昭和18年4月1日	松戸市長臨時代理 門六郎 松戸市立博物館
53	戦死者遺骨出迎方ニ関スル件	昭和18年6月5日	松戸市長臨時代理 門六郎→各市会議員 官衛学校長 団体長 松戸市立博物館
54	応召兵 武運長久祈願祭並ニ歓送式 挙行ニ関スル件	昭和18年6月5日	松戸市長臨時代理 門六郎→各市会議員 官衛学校長 団体長 松戸市立博物館
55	戦時備蓄債権類	昭和14～18年頃	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
56	特攻の概要・松戸市出身の特攻隊員遺影パネル		知覧特攻平和会館
57	海軍志願兵採用通知類	昭和19年	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
58	平和記念絵葉書	昭和9年の一部印 あり	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
59	図囊	(昭和)	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
60	旧軍編上靴	昭和15年及び昭和 18年	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
61	旧軍鉄帽	(昭和)	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
62	千人針	(昭和)	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
63	千人力	(昭和)	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
64	図上戦術用兵棋	昭和27年	陸上自衛隊松戸駐屯地 需品学校
65	松戸市の戦災状況 ★ (4枚)		松戸市
66	大野禮子さん被爆体験記 ★ (2枚)		松戸市

3 戦中（広島市・長崎市）

No.	資料	年代	所蔵
67	広島に投下された原子爆弾「リトルボーイ」(実物大) ポスター		広島平和記念資料館
68	長崎に投下された原子爆弾「ファットマン」(実物大) ポスター		松戸市
69	原爆資料パネル ★ (21枚)		長崎原爆資料館
70	ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル ★ (14枚)		広島平和記念資料館
71	被爆時の三菱製鋼所所長印		長崎原爆資料館
72	巾着		長崎原爆資料館
73	懐中時計		長崎原爆資料館
74	柱時計		長崎原爆資料館
75	サイダー瓶		長崎原爆資料館
76	溶けた瓶		長崎原爆資料館
77	花瓶		長崎原爆資料館
78	火鉢の破片		長崎原爆資料館

79	浦上天主堂のレンガ	長崎原爆資料館
80	溶解物	長崎原爆資料館
81	被爆した瓦	広島平和記念資料館

4 戦後（松戸市）

No.	資料	年代	所蔵
82	松戸駅前に並ぶタクシー ★	昭和29年頃	松戸市
83	松戸市街を望む ★	昭和28年頃	松戸市
84	北小金駅南口商店街 ★	昭和30年代初期	松戸市
85	松戸駅前広場 ★	昭和28年頃	松戸市
86	昭和29年の北小金駅 ★	昭和29年	松戸市
87	矢切小学校新校舎落成記念 ★	昭和25年	松戸市
88	六実を走るジープ ★	(昭和)	松戸市
89	馬橋小学校で ★	昭和22年頃	松戸市
90	駅風景（馬橋駅） ★	昭和22年	松戸市
91	従軍証明書 他	昭和19年頃	松戸市
92	ララ物資関係文書綴	昭和20年	民生課保険係 松戸市立博物館
93	修了證書	昭和24年頃	松戸市
94	おぼえがき（学習ノート）	昭和20年頃	松戸市
95	まばし 一二三年号	昭和14年8月	千葉県東葛飾郡馬橋尋常高等小学校 松戸市立博物館
96	まばし 高学年号	昭和14年7月	千葉県東葛飾郡馬橋尋常高等小学校 松戸市立博物館
97	松戸市立馬橋小学校 社会科単元表	昭和23年	松戸市立博物館

(4) 博学連携展示「松戸探検 100 年前からのくらしのうつりかわり」

- ◆主催 松戸市立博物館（企画担当 青木 俊也・米村 創）
◆会 期 ①令和 7 年 1 月 15 日（水）～5 月 18 日（日）（93 日）
②令和 8 年 2 月 7 日（土）～2 月 22 日（日）（14 日）
※②は松戸市文化ホールギャラリー 1 にて開催

- ◆観覧者数 ① 11,527 人
（令和 6 年度：7,032 人 令和 7 年度：4,495 人）
② 1,200 人

- ◆観 覧 料 無料

- ◆印刷物 ①ポスター B 2 判 100 枚
チラシ A 4 判 10,000 枚
探検手帳 1,300 枚
②ポスター B 4 判 2,000 枚
チラシ A 4 判 3,000 枚

◆関連企画【参加費無料】

①土曜ワークショップ（博物館友の会共催）

※令和 7 年 4 月 1 日（火）～5 月 18 日（日）開催分

昔のくらしにまつわる様々な体験ができるワークショップを、会期中の毎週土曜日に開催した。

- ・「天秤棒で桶をかついでみよう」（会場：企画展示室ロビー）

対 象 者 一般（子どもから大人まで）

内 容 水道がなかった頃、水汲みに使われていた桶を天秤棒で実際に担ぐ体験。屋内で実施のため、水は使用せずおもりで代用。参加者は担ぎ方を教わり、上手に運ぶコツを学んだ。

開催月日 令和 7 年 4 月 12 日、5 月 3 日、5 月 17 日
（全て土曜日）

13：00～15：30 の間で随時

講 師 博物館友の会有志

参加人数 94 人（令和 7 年度実施分）

- ・「風呂敷をつかってみよう」（会場：企画展示室）

対 象 者 一般（子どもから大人まで）

内 容 風呂敷でさまざまな形の物を包み、昔のくらしの工夫を体験した。

開催月日 令和 7 年 4 月 5 日、4 月 26 日（全て土曜日）

13：00～15：30 の間で随時

講 師 博物館友の会有志

参加人数 54 人（令和 7 年度実施分）

- ・「機織りをしてみよう」（会場：企画展示室ロビー）

対 象 者 一般（子どもから大人まで）

内 容 古い布を裂いて作った緯糸（よこいと）を使って、機織り機で布を織る体験。

開催月日 令和 7 年 4 月 19 日、5 月 10 日（全て土曜日）

講 師 博物館友の会サークル・はたくさの会有志

13：00～15：30 の間で随時



参加人数 43 人（令和 7 年度実施分）

②土曜ワークショップ

※令和 8 年 2 月 7 日（土）～2 月 22 日（日）開催分

土曜ワークショップは開催しなかった。

◆展示資料 ①令和 7 年 4 月 1 日（火）～5 月 18 日（日）展示分は『松戸市立博物館年報』第 32 号に掲載済のため省略した。

②令和 8 年 2 月 7 日（土）～2 月 22 日（日）展示分

No.	資料名称	備考
体験展示コーナー		
1	足あと探偵（足の文数をはかる）	「足あと探偵！きみの足は何文？」
2	身長計（尺と寸の目盛りを併記）	「昔の単位で背の高さをはかってみよう！」
3	普段のお膳（茶碗・お碗・箸・角皿・丸皿・小皿）	「お膳でご飯を食べる」
4	ちゃぶ台（茶碗・お碗・箸）	「ちゃぶ台でご飯を食べる」
5	小豆	「杵で小豆の量をはかってみよう！」
6	一合杵	「杵で小豆の量をはかってみよう！」
7	五合杵	「杵で小豆の量をはかってみよう！」
8	一升杵	「杵で小豆の量をはかってみよう！」
9	天秤棒	「天秤棒で桶をかついでみよう！」
10	水桶	「天秤棒で桶をかついでみよう！」
11	背負い籠	「背負いかごをせおってみよう！」
12	たらい	「せんたく」
13	洗濯板	「せんたく」
14	洗濯石鹸	「せんたく」
15	座敷ほうき	
16	座布団	2 枚
17	畳（体験コーナー用）	6 畳
昔の道具展示コーナー		
食べる		
18	かまど（鋳物）	
19	まき	
20	火吹き竹	
21	火挟み	
22	火かき棒	
23	十能	
24	火消し壺	
25	渋うちわ	
26	鉄瓶	
27	鍋敷き	
28	映像展示「かまどでご飯を炊く」	モニター使用
29	一合杵	
30	一斗杵	
31	斗かき	
32	米研ぎ桶	
33	羽釜	
34	飯櫃	
35	杓文字	

No.	資料名称	備考
36	七輪	
37	鉄鍋	
38	杓子	
39	脚付きまな板	
40	湯のみ茶碗と土瓶	
41	蠅帳	箱型
42	漬け物樽	
くらす		
43	鋏	
44	炭火アイロン	
45	蚊遣りふた	
46	うちわ	
47	火鉢	
48	五徳	
49	火箸	
50	灰ならし	
51	鉄瓶	
52	炭おこし	
53	十能（炭運び）	
54	炭入れ	
55	湯たんぽ（陶製）	
56	湯たんぽ（ブリキ製）	

3 学習支援

(1) 講演会 【参加費無料】

■館長講演会

演 題 「江戸時代の俳諧 小林一茶を迎えた人々」
 対 象 者 一般
 開催月日 令和7年9月6日（土）
 場 所 松戸市民劇場ホール
 講 師 渡辺 尚志（館長）
 参加人数 234 人

■歴史を語る

第1回 演 題 「副葬品からみた古墳時代－装飾付大刀について－」
 対 象 者 一般
 開催月日 令和7年8月2日（土）
 場 所 当館講堂
 講 師 柏木 善治氏（公益財団法人かながわ考古学財団）
 参加人数 54 人

第2回 演 題 「維新の草莽 金原忠蔵とその慰霊・顕彰」
 対 象 者 一般
 開催月日 令和7年8月10日（日）
 場 所 当館講堂
 講 師 岩立 将史氏（学習院大学史料館助教）
 参加人数 56 人

第3回 演 題 「人生儀礼の世界」
 対 象 者 一般
 開催月日 令和7年10月25日（土）
 場 所 当館講堂
 講 師 長沢 利明氏（元法政大学講師）
 参加人数 44 人

■学芸員講演会（会場：当館講堂）

各学芸員が専門分野に関して講演した。

開催年月	タイトル	講師	参加人数
令和7年7月27日（日）	戸定邸からみる“まつど”の近代	大 沼 大 晟 林 幸太郎	65 人
8月23日（土）	縄文時代の大きな竪穴住居	西 村 広 経	53 人
10月12日（日）	死者の「魂」の行方	青 木 俊 也	71 人
11月1日（土）	松戸で信仰される神々	米 村 創	60 人
11月29日（土）	松戸市内の庚申塔をめぐる	富 澤 達 三	51 人
12月13日（土）	松戸の「中世を増やす」試みⅡ	中 山 文 人	43 人

(2) 講座【参加費無料】

■古文書を読む（近世入門編）（会場：当館実習室）

内 容 市内の旧家の古文書をテキストに、当時の時代背景なども説明しながら、くずし字の解説をおこなった。

開催月日 令和7年11月3日（月・祝）～12月21日（日）までの日曜日（全5回）

講 師 富澤 達三（博物館学芸員）

応募人数 30人

参加人数 延べ120人（①26人②24人③23人④25人⑤22人）

■古文書を読む（近世中級編Ⅰ）（会場：当館実習室）

内 容 千駄堀の名主・土屋亮平家文書の御用留を解説した。

開催月日 令和7年5月31日（土）～7月26日（土）までの土曜日（全5回）

講 師 和泉 清司氏（高崎経済大学名誉教授）

応募人数 29人

参加人数 延べ128人（①26人②28人③28人④22人⑤24人）

■古文書を読む（近世中級編Ⅱ）（会場：当館実習室）

内 容 千駄堀の名主・土屋亮平家文書の御用留を解説した。

開催月日 令和7年9月7日（日）～11月2日（日）まで（全5回）

講 師 出口 宏幸氏（元江東区文化財主任専門員）

応募人数 31人

参加人数 延べ145人（①29人②29人③29人④27人⑤31人）

■吾妻鏡を読む（会場：男女共同参画センター「ゆうまつど」）

内 容 寿永3年3月10日条から同年4月6日条までを解説・解説した。

開催月日 令和7年9月4日（木）～10月30日（木）までの木曜日（全5回）

講 師 中山 文人（博物館学芸員）

応募人数 32人

参加人数 延べ131人（①30人②27人③23人④26人⑤25人）

■パートナー講座

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	参加人数
令和7年 4月29日(火)	大谷口の文化財をめぐる	松戸三田会	富澤 達三 (博物館学芸員)	7人
6月22日(日)	松戸市の100年をふりかえる	松戸史談会	林 幸太郎 (博物館学芸員)	23人
9月26日(金)	松戸の人生儀礼	明第2西地域包括支援センター	青木 俊也 (博物館学芸員)	7人
11月15日(土)	松戸の江戸時代 －庚申信仰と庚申塔について－	ゼファーヒルズ松戸フィオリーナ 自治会	富澤 達三 (博物館学芸員)	9人
12月5日(金)	松戸市域の戦跡をたどる	千葉県退職者連合東葛地域協議会	林 幸太郎 (博物館学芸員)	23人
12月23日(火)	“まつど”の農業・園芸の歴史 －明治～大正を中心に－	東葛園芸クラブ	林 幸太郎 (博物館学芸員)	45人
令和8年 3月5日(木)	小金地区の歴史「大谷口神明神社の百庚申と小金」	小金地区社会福祉協議会	富澤 達三 (博物館学芸員)	73人

■その他講師派遣等

実施年月日	内容	主催者	派遣講師	場所	参加人数
令和7年 6月27日(金)	東葛の旧石器・縄文時代	千葉県生涯大学校	西村 広経 (博物館学芸員)	千葉県生涯大学校 東葛飾学園	84人
9月5日(金)	戦国時代の松戸市域や東葛のようす	千葉県生涯大学校	中山 文人 (博物館学芸員)	千葉県生涯大学校 東葛飾学園	76人
9月24日(水)	稲作と祭りの関係	旭町小学校	米村 創 (博物館学芸員)	旭町小学校	97人
9月25日(木)	常盤平地区の移り変わり	常盤平第一小学校	青木 俊也 (博物館学芸員)	常盤平第一小学校	15人
10月25日(土)	有名人総出演 松戸市立博物館の古文書を眺めていたら、関東・東海の重大事件がわかった！	専修大学松戸中学校	中山 文人 (博物館学芸員)	専修大学松戸中学校	131人
11月21日(金)	歴史系地域博物館の学芸員の活動	明治大学	中山 文人 (博物館学芸員)	明治大学	53人
令和8年 1月29日(木)	市の様子与人々のくらしのうつりかわり	上本郷第二小学校	米村 創 (博物館学芸員)	上本郷第二小学校	59人
2月19日(木)	令和7年度 まつど生涯学習大学「松戸の葬送儀礼について」	まつど生涯学習大学	青木 俊也 (博物館学芸員)	松戸市民劇場	145人
2月28日(土)	千葉経済大学・千葉市立郷土博物館連携歴史講座「千葉氏と城館－住まう・治める・戦う－」	千葉経済大学 千葉市立郷土博物館	中山 文人 (博物館学芸員)	千葉経済大学	207人
3月24日(火)	「村」から探る松戸市の歴史講座－小金原地域の江戸時代	小金原九丁目町会	富澤 達三 (博物館学芸員)	小金原9丁目会館	20人

(3) 体験学習 【参加費無料】

■こども体験教室「親も楽しむ 米づくりと展示づくり－小学生学芸員になろう－」

主 催 松戸市立博物館（博物館友の会共催）

対 象 者 小学4年生～6年生と保護者の方

内 容 21世紀の森と広場内の水田で田おこし、代かき、田植え、田の草取り、案山子づくり、稲刈り、脱穀までの一連の作業を体験し、竈でご飯を炊き試食した。さらに、その作業を示したパネルをつくり、博物館アワード作品展期間中に小学生学芸員コーナーとして展示し、子どもたちがみずから展示解説を行った。なお、この体験教室には博物館友の会の有志の協力を受けた。

開催月日 ①令和7年4月26日（土）田おこし・代かき
 ②5月10日（土）田植え
 ③6月28日（土）田の草取り
 ④7月26日（土）案山子づくり
 ⑤9月20日（土）稲刈り
 ⑥10月4日（土）脱穀
 ⑦10月18日（土）かまどでご飯を炊く・展示づくり①
 ⑧11月8日（土）展示づくり②
 ⑨11月15日（土）展示づくり③
 ⑩12月13日（土）小学生学芸員展示解説会

場 所 21世紀の森と広場の水田・博物館実習室等

講 師 青木 俊也・米村 創（博物館学芸員）・平松 澄明（博物館学習支援専門員）・友の会会員有志

応募人数 24人（小学生12人、保護者12人）（※定員12組）

参加人数 延べ168人 (①22人②14人③15人④20人⑤24人⑥23人⑦17人⑧9人⑨12人⑩12人)

■こども体験教室「親も楽しむ 勾玉づくり」(会場：実習室)

開催日	時間	対象者	講師	応募数	参加人数
令和7年8月17日(日)	① 10:00～11:00	小学生・保護者 ※児童だけの参加も可	西村 広経 (博物館学芸員)	57 人	31 人
	② 13:30～14:30				
内容：滑石を研磨して勾玉を作る。					

■こども体験教室「博物館で学ぼう！遊ぼう！体験講座」

対 象 者 ①小学1年生～3年生の部 ②小学4年生～6年生の部
内 容 子どもたちが博物館、竪穴住居、21世紀の森と広場でやってみたいことを募集し、21世紀の森と広場の探索や竪穴住居での石蒸し料理体験などを行った。
開催日時 ①令和7年10月5日(日)13:30～15:30(親子体験)
②令和7年10月19日(日)13:30～15:30(子どものみ)
講 師 三島 孔明氏(千葉大学園芸学部准教授)・西村 広経(博物館学芸員)
鵜沼 豊・平松 澄明(博物館学習支援専門員)
応募人数 ①18組②8人
参加人数 ①4組②4人

■体験教室「裂き織りでポケットティッシュケースを作ろう！」(友の会共催)

開催日	時間	対象者	講師	応募人数	参加人数
令和7年7月30日(水)	① 9:40～10:20	一般	はたくさの会会員	31人	31人
	② 10:40～11:20				
	③ 11:40～12:20				
	④ 13:40～14:20				
	⑤ 14:40～15:20				
7月31日(木)	9:40～12:00				
内容：裂いた古布を素材として、新しい布に再生し、ポケットティッシュケースを作る。					

■「千駄堀たんけん隊ー地形・石仏・道をさぐるー」

対 象 者 小学4年生～中学3年生
内 容 21世紀の森と広場、周辺(千駄堀円能寺・香取神社)を探検し、身近にある文化財や地形・自然物などへの理解を深める。
開催日時 令和7年11月22日(土)13:00～16:30
講 師 富澤 達三・米村 創・林 幸太郎(博物館学芸員)
参加人数 4人
応募人数 4人

(4) ミュージアムシアター・プレイルーム

■ミュージアムシアター【無料】

公共上映権付きのドキュメンタリーを、講堂において毎日・月替わりで定時上映した。ただし、講演会等の開催時には、上映を中止した。
上映時間 11:00～、13:15～、15:15～
土日祝日の午後1時15分上映分は「キッズシアター」として、子ども向けのアニメーションを上映した。

ミュージアムシアター

上映月	タイトル	上映日数	観覧者数	一日平均
令和7年4月	プーチンと西側諸国 第1巻／「ロシアの縄張り」	25日	69人	2人
5月	EXPO OSAKA 1970/1970年大阪万博と日本	25日	93人	3人
6月	EXPO OSAKA 1970/1970年大阪万博と日本	18日	47人	2人
7月	A hope of NAGASAKI 優しい人たち	27日	38人	1人
8月	for you 人のために	27日	34人	1人
9月	ビッグ・リトル・ファーム／理想のくらしのつくり方	25日	30人	1人
10月	ひとにぎりの塩	27日	60人	2人
11月	プーチンと西側諸国 第2巻／「アラブの春での復讐」 ナガサキの少年少女たち	21日	98人	4人
12月	レアメタルと気候危機	21日	44人	2人

キッズシアター

上映月	タイトル	上映日数	観覧者数	一日平均
令和7年4月	ももたろう・ねずみのむことり・南風と北風・へっこき嫁さん	8日	32人	4人
5月	なすおばけ・かちかちやま・ほれぐすり・金目・銀目	11日	47人	4人
6月	そうめん地蔵・きつねの恩返し・わらしべ長者・金太やんと銀太やん	7日	73人	10人
7月	おむすびころりん・閻魔さまの失敗・狐と狸の寄り合い田・金のかに	8日	51人	6人
8月	白鳥になった天の娘・文福茶釜・山のせいくらべ・鼻取り地蔵	8日	34人	4人
9月	ねずみ経・夢の蜂・天女のはごろも・鳥のみじい	9日	18人	2人
10月	うらしまたろう・徳坊の天狗退治・ときが原の女狐・空とぶ舟	7日	24人	3人
11月	若返りの水・三枚のお札・鬼の嫁さん・ねこにすず いわたくんちのおばあちゃん〜ぼく、戦争せんけえね〜 つるにのって〜とも子の冒険〜	8日	36人	4人
12月	夢見小僧・もちを三つもらった話・びんぼう神と福の神 ・たんが寺のたぬき和尚	5日	12人	2人

■プレイルーム 【参加費無料】

いつでも来館者が楽しみながら学べる場として、年齢問わず無料で開放している。

常設体験プログラムの他にも、イベントに合わせて「アンデスの笛サンポーニャをつくろう！」や季節に合わせたマンスリープログラムも実施した。

【令和7年度常設体験プログラム】

- ・プレイルームでぬりえ！（こむそう「虚無僧」・たてあなじゅうきょ「堅穴住居」等、12種類）
- ・パズルをたのしもう！（おししがり「御鹿狩」の絵、じょうちゃん・もんちゃんの絵）
- ・アンギン編み体験
- ・アンギン衣装体験
- ・土器パズル
- ・糸車により糸つむぎ（プレイルームスタッフによる実演）

令和7年度利用者総数 10,575人

うちマンスリープログラム参加者数 1,647 人

開催月	イベント名	回数	参加人数
4・5月	こいのぼりづくり	4回	627人
6月	かえるびょんびょん選手権	2回	137人
7月	むかしのひらがなであそぼう！	3回	158人
8月	自由研究対応講座アンギンコースターづくり	2回	115人
9・10月	むかしのあそび	4回	286人
11月	パズルの日	1回	77人
12月	しめかざりづくり	2回	247人

※この他、こどもミュージアム用プログラムの試行としてじょうもんもんようおえかきでんごんゲームなどの体験プログラムも実施した（43人が参加）。

(5) 館内公開 【参加費無料】

対 象 者 一般

内 容 博物館の多様な活動への理解を促進するため、通常非公開のバックヤード（車庫、荷解梱包室、燻蒸室、学芸員室、スタジオ、機械室、収蔵庫）を紹介・解説するもの。

開催月日 令和7年8月24日（日）10：00～11：00・11：30～12：30

※応募者多数のため、2回開催した。

講 師 青木 俊也・富澤 達三・西村 広経（博物館学芸員）

応募人数 75人

参加人数 合計31人（①15人②16人）

(6) ガイドツアー（常設展示解説）【参加費無料】

「人類の登場」から「都市へのあゆみ」まで、2名の展示解説員によるリレー方式の解説会を毎日随時受け付けた。（解説時間約30分）。なお、団体観覧者においては適宜開催した。

参加人数 294人

(7) 情報提供

■閲覧コーナー

購入図書及び関係諸機関との交換図書の閲覧サービスを行っている。蔵書の一部は開架で提供している。

・蔵書数（令和8年3月31日現在）

開架図書冊数 1,237冊

閉架図書冊数 45,215冊

合計 46,452冊

・閲覧コーナーの利用者数 1,411人

・閉架図書の利用状況

利用人数 48人

利用冊数 160冊

・視聴覚資料数

ビデオテープ 413巻

CD 93枚

DVD 258枚

LD 4枚

■刊行物

令和7年度の刊行物は次の通りです。

- 松戸市立博物館年報 第32号
A 4版 64頁 500部 令和7年9月12日
- 松戸市立博物館紀要 第33号
A 4版 38頁 700部 令和8年3月31日

■SNSによる情報発信

令和6年4月29日に当館公式 Facebook、X（旧 Twitter）、Instagram を開設以来、最新情報を発信している。

■ICTの活用

- 松戸市立博物館団体申込受付電子受付を行っている。

■まつどデジタルミュージアム公開資料件数 ※（ ）は前年度比

	歴史	民俗	考古
令和6年度	15,774	4,163	8,256
令和7年度	15,774（0）	4,163（0）	10,093（1,837）

■ミュージアムショップ

刊行物とミュージアムグッズを販売している。

※価格は税込

ミュージアムグッズ		
ジグソーパズル	5種類	各 900 円
	5種類	1,200 円
絵葉書	8種類	80 円
テレフォンカード ※通運丸は売り切れ	4種類	700 円
虚無僧ストラップ ※青色は売り切れ	2種類	750 円
一筆箋	4種類	300 円
縄文土器レプリカ深鉢型土器		完売
アクリルキーホルダー（まつど・とくがわ）		500 円
クリアファイル（まつど・とくがわ）		150 円
クリアファイル（じょうちゃん・もんちゃん）		完売
クリアファイル （コシッキー 1 体・3 体）	2種類	150 円
A5 ファイル ※地図は売り切れ	1種類	200 円
じょうちゃん・もんちゃん コラボシール		200 円
小風呂敷		680 円
てぬぐい	2種類	550 円
ダイカットメモ	2種類	300 円
不織布トート	3種類	150 円
トートバッグ ※埴輪トートバッグは売り切れ		390 円
ミニタオル		完売
機織りハンドメイドポーチ		完売
2DK の住まい（マスキングテープ）		560 円
オリジナル計測野帳		310 円
人生儀礼豆菓子三食豆		完売
人生儀礼豆菓子（あんころ豆）		完売
人生儀礼豆菓子（はちみつ豆）		完売
人生儀礼焼き菓子		完売
人生儀礼うえるかむサブレ		完売
人生儀礼うえるかむサブレ（福）		完売

資料集・報告書	
松戸市立博物館歴史資料集 1 東漸寺所蔵資料集	700 円
松戸市立博物館歴史資料集 2 青木源内家所蔵資料目録追加	700 円
松戸市立博物館映像記録 VTR 送り大師 東葛飾印旛大師講の人々	完売
松戸市立博物館報告書 1 松戸の三匹獅子舞（VTR 含む）	5,400 円
松戸市立博物館報告書 2 縄文時代以降の松戸の海と森の復元	1,200 円

資料集・報告書	
松戸市立博物館報告書 3 松戸市民家調査報告書	完売
松戸市立博物館報告書 4 松戸宿場町建築物調査報告書	2,100 円
松戸市立博物館報告書 5 農村松戸の民俗 - 1960 年代調査の記録 -	800 円
松戸市立博物館報告書 6 松戸市役所広報課旧蔵写真目録	900 円
松戸市立博物館館蔵資料目録 1 プラスチック資料デザイン関係資料	2,300 円
松戸市立博物館報告書 7 森の住宅都市 常盤平団地の生活史 1960 - 2022	1,200 円
松戸市立博物館報告書 8 「こどもミュージアム」展示開発に向けた 製作途中報告書	2,000 円

図 録	
改訂版 常設展示図録（平成 16 年度）	完売
開設記念展 松戸写真館 - カメラがとらえた松戸の人々 - （平成 5 年度）	完売
特別展 縄文土器の世界（平成 5 年度）	完売
企画展 救いの民俗 - 地獄極楽冥土の旅 -（平成 6 年度）	完売
特別展 馬と牧 - かつて松戸は牧場だった -（平成 6 年度）	完売
特別展 稲と魚 - 水田をめぐる漁・猟・採集 -（平成 7 年度）	900 円
特別展 古墳時代の飾り馬 - 馬利用のはじまりをさぐる - （平成 7 年度）	完売
企画展 小金城主高城氏 （平成 8 年度〈平成 13 年度再販〉）	完売
特別展 シルクロードとガンダーラ （平成 8 年度）	1,500 円
特別展 福神の世界（平成 9 年度）	完売
特別展 ネアンデルタール人の復活 （平成 10 年度）	1,000 円
企画展 水戸道中 - 宿場と旅人 -（平成 10 年度）	完売
特別展 貝塚を考える（平成 10 年度）	1,200 円
企画展 戦後松戸の生活革新 - 新しい暮らし方へのあこがれ - （平成 12 年度）	完売
企画展 中世の東葛飾 - いのり・くらし・まつりごと - （平成 13 年度）	1,200 円
企画展 弥生人の脳発見！ - とっとり青谷上寺地遺跡展 - （平成 13 年度）	完売

図 録	
企画展 はにわの十字路 －古代の東国の交流と地域性－ (平成 14 年度)	1,000 円
特別展 川の道 江戸川 (平成 15 年度)	完売
企画展 昔のくらし探検 (松戸版) (平成 16 年度)	500 円
企画展 ベルシャ文明の曙 －文明の基層を探る－ (平成 17 年度)	1,000 円
企画展 戦国の城をさぐる －松戸市根本内歴史公園開園記念－ (平成 18 年度)	完売
企画展 大名の旅 －本陣と街道－ (平成 19 年度)	1,000 円
特別展 縄文時代の東・西 (平成 20 年度)	1,000 円
企画展 人生儀礼の世界 (平成 21 年度)	1,000 円
企画展 湯浅喜代治 考古コレクション －夢を追った 70 年－ (平成 25 年度)	1,000 円
企画展 東日本の古墳と渡来文化 －海を越える人とモノ－ (平成 24 年度)	完売
特別展 松戸の発掘 60 年史 －市内の遺跡を再検討－ (平成 25 年度)	1,000 円
企画展 Plastic?/Plastic! －高度経済成長とプラスチック－ (平成 26 年度)	1,000 円
企画展 石斧と人 －3 万年のあゆみ－ (平成 28 年度)	800 円
企画展 本土寺と戦国の社会 (平成 29 年度)	900 円
特別展 ガンダーラ －仏教文化の姿と形－ (平成 30 年度)	1,000 円
企画展 松戸と徳川将軍の御鹿狩 (令和 2 年度)	1,000 円
企画展 古墳時代のマジカルワールド (令和 3 年度)	1,000 円
企画展 異形土器 縄文時代の不思議なうつわ (令和 6 年度)	1,000 円

紀 要	
松戸市立博物館紀要 第 1 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 2 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 3 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 4 号	700 円
松戸市立博物館紀要 第 5 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 6 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 7 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 8 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 9 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 10 号	1,000 円
松戸市立博物館紀要 第 11 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 12 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 13 号	400 円
松戸市立博物館紀要 第 14 号	500 円

紀 要	
松戸市立博物館紀要 第 15 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 16 号	600 円
松戸市立博物館紀要 第 17 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 18 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 19 号	400 円
松戸市立博物館紀要 第 20 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 21 号	600 円
松戸市立博物館紀要 第 22 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 23 号	400 円
松戸市立博物館紀要 第 24 号	300 円
松戸市立博物館紀要 第 25 号	400 円
松戸市立博物館紀要 第 26 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 27 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 28 号	700 円
松戸市立博物館紀要 第 29 号	500 円
松戸市立博物館紀要 第 30 号	600 円
松戸市立博物館紀要 第 31 号	600 円
松戸市立博物館紀要 第 32 号	600 円
松戸市立博物館紀要 第 33 号	400 円

松戸市史	
松戸市史 上巻	完売
松戸市史 上巻 (改訂版)「原始・古代・中世」	3,000 円
松戸市史 中巻「近世」	5,500 円
松戸市史 下巻 (一)「明治」	4,000 円
松戸市史 下巻 (二)「大正・昭和」	3,900 円
松戸市史史料編 (一)「大熊家文書」	2,800 円
松戸市史史料編 (二)「近世諸家文書」	完売
松戸市史史料編 (三)「萬満寺史料」	3,500 円
松戸市史史料編 (四)「本土寺史料」	5,500 円
松戸市史史料編 (五) 上「秋谷家文書」	8,050 円
松戸市史史料編 (五) 下「秋谷家文書」	7,500 円
松戸市史史料編 (六)「東漸寺史料」	5,000 円
松戸市古文書目録 (一)「諸家文書」	1,100 円
松戸市古文書目録 (二)「諸家文書」	1,500 円
松戸市古文書目録 (三)「本土寺文書他」	2,000 円
松戸市古文書目録 (四)「秋谷家文書」	2,500 円
松戸市史考古資料集 1 大谷口遺跡の土師器と須恵器	300 円
松戸市史考古資料集 2 千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする 考古資料	300 円
松戸市史考古資料集 3 関場遺跡第 2 地点出土旧石器資料報告・ 寒風台遺跡出土石器整理報告	300 円
松戸市史考古資料集 4 上本郷遺跡出土縄文時代後期から 晩期を中心とする考古資料	400 円

4 連携事業

1 博学連携プログラム

①受け入れ

■博物館実習

令和7年度博物館実習生 8人

	所 属
1	淑徳大学 人文学部歴史学科 4年生
2	立教大学 文学部 文学科 3年生
3	八洲学園大学 生涯学習学部生涯学習学科 正科生
4	大正大学 文学部歴史学科 4年生
5	青山学院大学 文学部史学科 4年生
6	神奈川大学 国際日本学部 歴史民俗学科 4年生
7	立正大学 文学部 史学科 4年生
8	日本女子大学 人間社会学部 現代社会学科 4年生

(1) 合同実習

月 日	午 前	午 後
7月27日(日)	松戸市立博物館の概要・理念・場所解説	常設展・企画展、館内バックヤード見学

(2) 個別実習

7月31日～8月6日（8月4日を除く）

月 日	午 前	午 後
7月31日(木)	考古学分野実習（資料の扱い方ほか）	同左
8月1日(金)	市川歴史博物館・市川考古博物館の見学	葛飾区郷土と天文の博物館の見学
8月2日(土)	民俗分野実習（カラムシ繊維採取体験）	同左
8月3日(日)	歴史分野実習（近世・近代古文書整理）	同左
8月5日(火)	共通テーマ「常設展示の批判と改善について」	同左
8月6日(水)	「常設展示の批判と改善について」研究発表	実習まとめ・レポート執筆など

■MCR 学級生による企画展の見学会

連 携 MCR（Matsudo Child-raising Class）※家庭教育学級の一環として市内在住の小中学生保護者のための学びの場）

内 容 館蔵資料展「誕生・結婚・死の儀礼－人生の始まり方 終い方－」と常設展を見学した。

開催月日 令和7年10月30日（木）10：00～12：00

参加人数 40人

■千教研松戸支会社会科教育部会市内研修

連 携 千教研松戸市会社会科教育部会

内 容 千葉県教育委員会教員研修の一環として、常設展を見学した。

開催月日 令和7年8月28日（木）

参加人数 18人

■千葉県立小金高等学校インターンシップ

連 携 千葉県立小金高等学校生徒

内 容 学芸員の指導のもと、資料整理などの体験メニューや高校生の進路選択の一助となるよう、歴史資料（古文書）の解説・整理、考古資料の取り扱い・整理、学芸員とのフリートークを行った。

開催月日 ①令和7年8月20日（水）・8月21日（木）

②令和7年10月1日（水）・10月2日（木）

参加人数 合計11人（①9人②2人）

■千葉県立小金高等学校探求学習支援

連 携 千葉県立小金高等学校生徒

内 容 「松戸市の防災」を探求するグループへ近世・近代の災害対策など、情報提供を行った。

開催月日 通年

参加人数 2人

■千葉県立松戸南高等学校インターンシップ

連 携 千葉県立松戸南高等学校生徒

内 容 学芸員の指導のもと、バックヤード見学や資料整理、資料の取り扱いなどの体験メニューを行った。

開催月日 令和7年11月12日（水）・11月13日（木）

参加人数 2人

■レッツ体験!! 2025（まつど市民活動サポートセンター主催）

連 携 市内在住・在学の中高生、専門学生、大学生等10代から20代の青少年

内 容 学芸員の仕事体験として、館蔵歴史資料（近代の教科書）の整理、米作り体験（田の草取り・案山子作り）の補助、館内のおすすめスポットを紹介してもらう「わたしの松戸市博」（博物館公式SNSで発信）を作成した。

開催月日 令和7年7月25日（金）・7月26日（土）

参加人数 8人

②派遣

■出前講座

市内の小学校・中学校を対象とし、当該校からの要請に応え、博物館学芸員及び学習支援専門員が、通常の授業の中でゲストティーチャーとして指導・支援を行った。

実 績 4校（p31「その他講師派遣等」を参照）

■地域学習

（1）常盤平第一小学校学習支援

内 容 常盤平第一小学校にて、常盤平に関する出前授業を行った。

開催月日 令和7年9月25日

講 師 青木 俊也（博物館学芸員）

参加人数 15人

また、博物館において上記授業を踏まえた学習成果の展示を行った。

開催月日 令和7年12月10日（水）～25日（木）

担 当 青木 俊也（博物館学芸員）・平松 澄明（博物館学習支援専門員）

（2）TOKIWALK 健康ウォーキングイベント

内 容 常盤平団地地域で開催の TOKIWALK 健康ウォーキングイベントにナビゲーターとして参加し、参加者を案内した。

開催月日 令和8年2月28日(土)

講 師 青木 俊也(博物館学芸員)

参加人数 30人

③事業

■博物館でアート【参加費無料】

対 象 者 小学4年生以上

内 容 博物館の環境を活用して造形活動を行った。令和7年度はステンシルによる型染体験、色鉛筆を使った100年前の松戸絵地図作り、クラフトバンド(紙製バンド)を使った縄文時代の編物(ポシェット)、組紐のアクセサリ作りを体験した。

開催月日 ①令和7年 7月20日(日)
②令和7年 8月24日(日)
③令和7年 9月21日(日)
④令和7年 10月26日(日)

講 師 鶴沼 豊・平松 澄明(博物館学習支援専門員)

参加人数 合計58人(①10人②12人③19人④17人)

■第10回博物館アワード

趣 旨 博学連携の一環として、博物館機能並びに環境を生かしたコンクールを開催することにより、児童生徒の博物館に対する理解を深めるとともに、博物館の積極的な活用を推進する機会とする。

募集概要 (1) 募集内容並びに募集対象者

①歴史に関する自由研究部門

小学生3・4年の部、小学生5・6年の部、中学生の部

②歴史に関するイラスト部門

小学生3・4年の部、小学生5・6年の部、中学生の部

(2) 募集期間

令和7年9月2日(火)～9月15日(月・祝)

(3) 表彰 ※第10回開催にあたり記念賞を増設した。

①自由研究部門各部の最優秀作品に対して市長賞、教育長賞、博物館長賞、審査委員長賞、第10回記念賞、各1点、さらに優秀賞9点、佳作36点

②イラスト部門各部の最優秀賞作品に対して、市長賞、教育長賞、博物館長賞、審査委員長賞、第10回記念賞、各1点、さらに優秀賞9点、佳作39点

応募点数

	小学生3・4年の部	小学生5・6年の部	中学生の部	合計
自由研究部門	40	62	55	157
イラスト部門	58	50	200	308

応募校数 自由研究部門 26校 イラスト部門 31校

■第10回博物館アワード作品展

主 催 松戸市立博物館
 内 容 第10回博物館アワード（歴史自由研究部門、歴史イラスト部門）に応募した小中学生の入賞、入選作品を展示した。
 会 期 令和7年12月10日（水）～12月25日（木）
 会 場 松戸市立博物館 企画展示室
 観 覧 料 無料
 作 品 数 自由研究部門 50点
 イラスト部門 241点

第10回博物館アワード審査結果【イラスト部門】



●市長賞
 専修大学松戸中学校 2年生
 「弥勒菩薩」



●教育長賞
 松戸市立高木第二小学校 3年生
 「愛媛の太鼓祭」



●博物館長賞
 松戸市立河原塚中学校 2年生
 「本土寺とあじさい」



●審査委員長賞
 松戸市立河原塚中学校 2年生
 「縄文のヴィーナス」

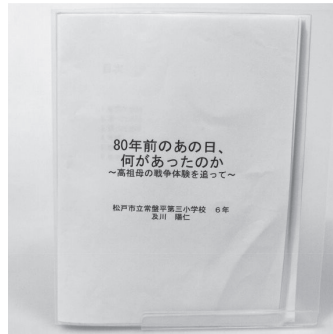


●第10回記念賞
 松戸市立第五中学校 2年生
 「ねぶた」

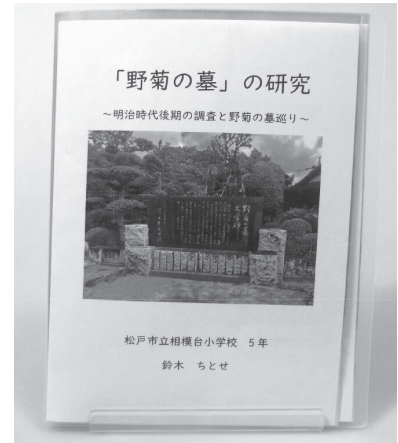
第 10 回博物館アワード審査結果【自由研究部門】



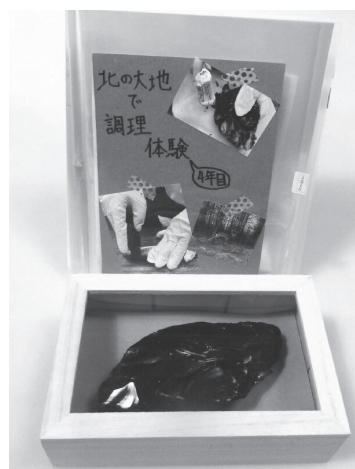
●市長賞
松戸市立河原塚小学校 6年生
「今も残る江戸時代 松戸の庚申塔」



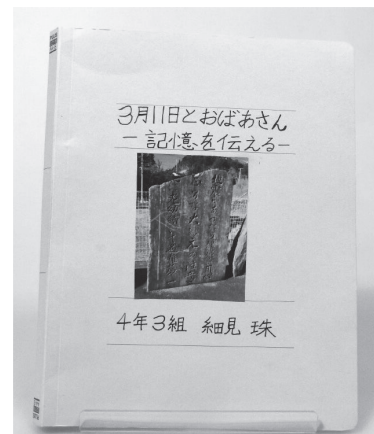
●教育長賞
松戸市立常盤平第三小学校 6年生
「80年前のあの日、何があったのか
～高祖母の戦争体験を追って～」



●博物館長賞
松戸市立相模台小学校 5年生
「『野菊の墓』の研究～明治時代後期の調査と野菊の墓巡り～」



●審査委員長賞
松戸市立東松戸小学校 6年生
「北の大地で調理体験」



●第 10 回記念賞
松戸市立相模台小学校 4年生
「3月11日とおばあさんー記憶を伝えるー」

■森のこども館はくぶつかんチーム

主 催 松戸市立博物館・森のこども館

対 象 者 市内在住の小学生

趣 旨 体験型を通年の連続講座として実施し知識・経験を蓄積していくことで、歴史・文化に関する関心と理解を養う。

内 容 ①「かんさつ」と「しろく」：拓本をとろう
②素材のちがい：石の勾玉、土の勾玉
③みえないぶぶんを考える：レプリカ法
④ちがう道具、同じやくわり：石蒸し料理
⑤じっくり「かんさつ」しよう：展示見学

開催日時 ①令和7年5月18日（日） ②6月22日（日）
③7月20日（日） ④12月7日（日）
⑤12月21日（日）

小学生は10：00～11：00、中学生は11：15～12：15

場 所 森の工芸館、松戸市立博物館実習室ほか

講 師 西村 広経（博物館学芸員）

参加人数 5人

刊 行 物 連続講座の内容を紹介したパンフレット（『森のこども館×松戸市立博物館はくぶつかんチーム vol. 3』）を刊行

(2) その他

■野菊野こども館ワークショップ「拓本で土器のようを写しとろう！」

連 携 野菊野こども館
対 象 者 小学生
内 容 縄文土器の拓本製作を体験した。
開催日時 令和7年7月30日（水）13：30～15：00
場 所 野菊野こども館
講 師 西村 広経（博物館学芸員）
参加人数 14人

■3館連携事業 まつど文化のMORI 謎解きラリー 2025

内 容 博物館・21世紀の森と広場・森のホール21の各所に同時期に開催の館蔵資料展にまつわるクイズを設置。来場者は設置場所をまわり、人生儀礼にまつわる謎を解き、回答済みのラリーシートを博物館プレイルームに持参すると景品がもらえる。
開催期間 令和7年9月20日（土）～11月3日（月・祝）
場 所 松戸市立博物館・21世紀の森と広場・森のホール21
参加人数 627人

■「まつどの梨」出店販売

連 携 一般社団法人 松戸市観光協会・松戸市観光梨園組合連合会
内 容 連携特別展の開催に合わせて、展示テーマの一つ「まつどの梨」を出店販売した。
開催月日 令和7年8月30日（土）
場 所 松戸市立博物館ロビー

■出会う つながる ブックフェス in Matsudo

主 催 公益財団法人 松戸市文化振興財団
内 容 博物館ブースを出店し、刊行物やオリジナルグッズを宣伝した。また、館長講演会を行った。
開催月日 令和7年12月7日（日）
場 所 森のホール21
館長講演会 渡辺 尚志（博物館館長）「松戸の江戸時代を知る～私の著作から～」

5 調査・研究

(1) 研究員の活動

上守 秀明（公益財団法人千葉県教育振興財団文化財センター）

研究テーマ

「幸田貝塚発掘調査の再検討」

成果

幸田貝塚第1次・6次・9次調査の出土土器を分析した。未報告資料を含めて型式学的に検討した結果、土器群は概ね縄文時代前期初頭～前葉の範疇で理解することができ、従前の理解を追認することとなった。また、前期初頭出土土器に伴う非在地系土器を新たに抽出した。併せて令和8年度以降に予定される発掘調査報告書作成計画に係る資料をとりまとめた。

(2) 学芸員の活動

富澤 達三 専門分野：日本近世史・歴史民俗資料学

研究テーマ：「松戸市域の近世古文書」「モノ資料・図像資料から探る松戸の近世」

[年間活動]

- ・学芸員講演会「松戸市内の庚申塔をめぐる」（令和7年11月29日）

[外部機関等協力]

- ・神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料センター研究協力者
（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

[執筆]

- ・分担執筆『国策紙芝居からみる日本の戦争Ⅱ』（勉誠社、令和8年3月）

[所属学会]

地方史研究協議会 関東近世史研究会 明治維新史学会 日本民俗学会 国際浮世絵学会

西村 広経 専門分野：先史考古学

研究テーマ：「縄文時代後期中葉土器群の研究」「先史時代における社会複雑化過程の研究」

[年間活動]

- ・学芸員講演会「縄文時代の大きな竪穴住居」 令和7年8月23日
- ・発表「松戸市幸田貝塚38号住居跡の出土土器と人骨」千葉縄文研究会第83回例会 令和7年11月9日 千葉県松戸市
- ・ポスター発表「縄文時代後期中葉の東北地方における横帯文の系譜」第3回かささぎミーティング 令和7年11月28日 沖縄県那覇市

[外部機関等協力]

- ・千葉大学非常勤講師 博物館資料論A（令和7年4月1日～令和7年9月31日）
- ・千葉県生涯大学校講師「東葛の旧石器・縄文時代」（令和7年6月27日）
- ・ワークショップ講師「拓本で土器の模様を写しとろう」（野菊野こども館 令和7年7月30日）

[執筆]

- ・「土器型式編年論 後期」『縄文時代』36（令和7年5月24日）
- ・「縄文土器と集団の移動」設楽博己編『土器の考古学』雄山閣（令和7年8月25日）
- ・共著「幸田貝塚38号住居跡出土土器：竪穴住居跡床面出土人骨に伴う土器の紹介」『松戸市立博物館紀要』33（令和8年3月31日）

[所属学会]

日本考古学協会 考古学研究会 縄文時代文化研究会 早稲田大学考古学会 青森県考古学会

米村 創 専門分野：民俗学

研究テーマ：「祭礼と行事で形成される地域コミュニティの研究」

[年間活動]

- ・体験教室講師「親も楽しむ 米づくりと展示づくりー小学生学芸員になろうー」（友の会共催）（令和7年4月26日～12月13日）
- ・館蔵資料展「誕生・結婚・死の儀礼ー人生の始まり方 終い方ー」共同担当（令和7年9月20日～11月3日）
- ・博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」共同担当（令和7年1月15日～5月18日、令和8年2月7日～2月22日）
- ・学芸員講演会「松戸で信仰される神々」（令和7年11月1日）

[外部機関等協力]

- ・国分寺市教育委員会 国分寺市史編さん推進委員会 専門部会専門員（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

- ・国分寺市文化財調査専門員（令和8年1月1日～3月31日）
- ・狛江市立古民家園運営評議会委員（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

[執筆]

- ・「富山県地方史研究の動向」（『信濃』第77巻7号、令和7年7月）
- ・『久伊豆神社例大祭の山車と山車人形一本町二丁目・本町三丁目・新石三・弥生町編』（久伊豆神社、令和7年9月）共同執筆
- ・『どこの子・よその子・地域の子－地域が見守る子どもの成長』（さいたま民俗文化研究所、令和7年9月）共同執筆
- ・「研究ノート 現代の祭り行事を記録するにあたって－松戸市内の町会・自治会の氏子神社祭礼への参加事例－」（『松戸市立博物館紀要』第33号、令和8年3月）
- ・『越谷久伊豆神社例大祭の山車行事 越ヶ谷秋まつり 調査報告書』（越谷市教育委員会、令和8年3月）共同執筆

[所属学会]

日本民俗学会、日本民具学会、伝承文化学会、西郊民俗談話会、埼玉民俗の会、富山民俗の会

林 幸太郎 専攻分野：日本近現代史

研究テーマ：「近代における開墾事業の実態と地域社会への影響に関する研究」
「華族・士族の社会的役割に関する研究」

[年間活動]

- ・連携特別展「まつど×とくがわ－昭武・武定の生きた明治・大正・昭和－」（令和7年7月13日～8月31日）
- ・（総務課主催）松戸市平和祈念展「未来へとつなぐ平和」（令和7年11月18日～11月30日）
- ・学芸員講演会「戸定邸からみる“まつど”の近代」（令和7年7月27日）

[外部機関等協力活動]

- ・八街市史編さん委員会近現代専門部会専門委員（令和7年4月1日～令和8年3月31日）
- ・公益財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所非常勤研究員
（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

[所属学会]

明治維新史学会、地方史研究協議会、首都圏形成史研究会、千葉歴史学会、駒沢史学会

中山 文人 専門分野：日本中世史

研究テーマ：「関東中世史の研究」

[年間活動]

- ・講座講師「吾妻鏡を読む」（全5回、令和7年9月4日～10月30日の隔週木曜日）
- ・講演会講師 学芸員講演会「松戸の『中世』を増やす試み2－三題断と展望－」（令和7年12月13日）

[外部機関等協力活動]

- ・千葉県生涯大学校（東葛飾学園）講師 千葉県の歴史2「戦国時代の松戸市域や東葛のようす」（令和7年9月5日／東葛飾学園）
- ・専修大学松戸中学校出前授業講師 「松戸市立博物館の古文書を眺めていたら、関東・東海の大事件がわかった断」（令和7年10月25日）
- ・明治大学学芸員養成課程特別講義講師 「歴史系地域博物館の学芸員の活動」（令和8年11月21日）
- ・令和7年度 千葉県経済大学・千葉市立郷土博物館連携歴史講座講師
「千葉氏と城郭－住まう・治める・戦う」（令和8年2月28日）

[所属学会]

千葉城郭研究会 千葉歴史学会 歴史学研究会 地方史研究協議会

青木 俊也 専門分野：民俗学

研究テーマ：「常盤平団地生活史の研究」「戦後生活史展示の研究」「葬墓習俗の研究」

[年間活動]

- ・館蔵資料展「誕生・結婚・死の儀礼－人生の始まり方 終いかた－」共同担当（令和7年9月～11月3日）
- ・博学連携展示「松戸探検 100年前からのくらしのうつりかわり」共同担当（令和7年1月15日～5月18日、令和8年2月7日～2月22日）
- ・学芸員講演会「死者の『魂』の行方」（令和7年10月12日）
- ・体験教室講師「親も楽しむ 米づくりと展示づくり－小学生学芸員になろう－」（友の会共催）（令和7年4月26日～12月13日）

[外部機関等協力活動]

- ・出前授業講師 松戸市立常盤平第一小学校「団地ができたころの常盤平地域の様子とその後の移り変わり」（9月25日）
- ・パートナー講座講師「松戸の人生儀礼」（明第2西地域包括支援センター／令和7年9月26日）
- ・令和7年度まつど生涯学習大学講座講師 第6回「松戸の誕生の儀礼と葬送儀礼を通して死者の『魂』の行方を考える」（令和8年2月19日）
- ・TOKIWALK 健康ウォーキングイベントナビゲーター（2月28日）
- ・神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師「博物館歴史資料学特論」（令和7年9月1日～令和8年3月31日）

[所属学会]

日本民俗学会、群馬歴史民俗研究会

6 資料の収集と利用

(1) 資料の収集

一次資料収集

受贈

・山崎 禮子 様	「山崎禮子家（旧奥富薬局）文書」	214 点
・芝崎 孝 様	「縄文式土器（中期）」	1 点
・笹川里菜子 様	「縄文土器残欠」 河原塚遺跡採集	106 点
	「縄文土器残欠」 貝の花遺跡採集	83 点
	「縄文土器残欠」 採集地不明	189 点
	「耳飾残欠」 採集地不明	2 点
	「貝化石」 貝の花遺跡採集	13 点
	「貝化石」 採集地不明	6 点
・関口 貴之 様	「壺形土器」	1 点
・牛米 努 様	「東葛飾郡教育視察復命書（写）」	1 点
	「醤油醸造営業者帳簿記載方ニ関スル講和要領（松戸税務署長竹内驒作監修）」	1 点
・北島 俊一 様	「千葉大学園芸学部卒業アルバム」	1 点
・山田 好司 様	「勲八等白色桐葉章」	1 点
・松丸 博 様	「梨籠（目方六貫目）」	1 点
	「梨籠（目方四貫目）」	1 点

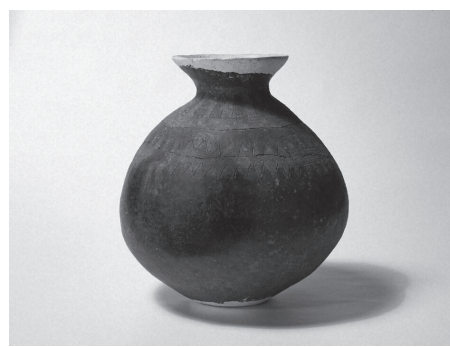
• 米本 捷夫 様	「功七級金鷄勲章」	1 点
	「授与証書功七級金鷄勲章」	1 点
	「勲七等青色桐葉章」	1 点
	「授与証書勲七等青色桐葉章」	1 点
	「支那事変従軍記章」	1 点
	「授与証書支那事変従軍記章」	1 点
	「米本熊吉氏肖像写真」	1 点
• 宗教法人 西蓮寺 代表役員 城光寺信顕 様		
	念仏講の道具一式（計 10 点）	
	「念仏講の鉦」	1 点
	「念仏講鉦打ち棒」	1 点
	「念仏講の太鼓」	2 点
	「念仏講の太鼓撥」	2 点
	「念仏講の数珠」	1 点
	「念仏講の太鼓台」	2 点
	「念仏講歌帳」	1 点

寄託

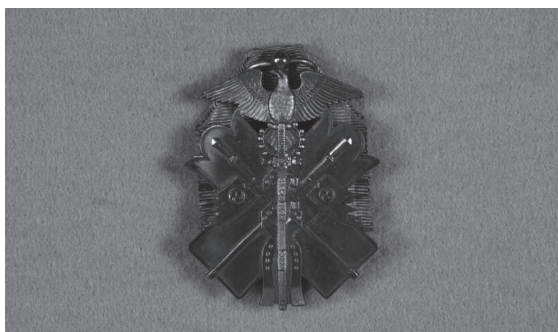
• 上本郷獅子講中 様	「上本郷獅子講中史料」	528 点
	「上本郷獅子舞 獅子頭羽根飾り」	3 点
• 石井 正人 様	「石井包人家文書」	1,227 点
• 塚田 輝夫 様	「旧秋山村渡辺家文書（近世地主関係）」	42 点
• 高城 安夫 様	「北条氏直判物」	1 点
• 城光寺信顕 様	「庚申待板碑」	1 点
• 松戸 雅男 様	「錦果園関係資料」	55 点
• 中山 幸一 様	「上本郷 中山敏子家文書」	62 点



「縄文式土器（中期）」



「壺形土器」



「功七級金鷄勲章」



「念仏講の道具（一式）」

二次資料収集

受贈図書 34 冊（団体 13 冊、個人 21 冊）

購入図書 101 冊

交換図書 463 冊

図書交換機関等 330 カ所

購入逐次刊行物 34 タイトル

受贈及び交換逐次刊行物 168 タイトル

(2) 博物館資料の貸し出し（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

No.	貸出期間	借出者	利用形態	目的	貸出資料・点数
1	令和8年1月14日 ～令和8年3月21日	千葉市立郷土博物館	資料貸出	特別展「千葉氏と城館」に展示するため	輪宝かわらけほか 12 点 小金城跡模型 1 点

(3) 博物館資料の特別利用

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
1	令和7年4月15日	松縁会	写真掲載	インターネット上の配信ウェブサイト「note」掲載する文章にて使用するため	企画展図録『あの日のまっど』p.28 掲載写真、No.104「松戸市街を葛飾区から遠望（1989年）」
2	令和8年2月25日	サイネット株式会社	写真掲載	株式会社帝国書院発行、高等学校 地理歴史科 歴史総合教科書準拠ノートに掲載のため	常盤平団地の復元展示写真 1 点
3	令和7年6月1日	Hops5	写真掲載	書籍への掲載のため	01—06-012 柳仙育英センター（広報課旧蔵写真）
4	令和7年9月	帝国書刊行会	写真掲載	書籍への掲載のため	深鉢形土器（幸田貝塚）ほか 6 点
5	令和7年6月11日	主婦の友社	写真掲載	京葉ガスウェブサイト「withyou千葉」6月配信「地域の博物館に行ってみよう！」企画掲載のため	竪穴住居外観ほか 8 点
6	令和7年6月11日	株式会社ニームツリー	写真撮影	『京成らいん×kodomoe』（9月末配布）撮影	復元竪穴住居
7	令和7年6月10日	個人	写真掲載	ホームページへの掲載原稿の資料写真にするため	幸田貝塚出土土器、幸田貝塚出土遺物
8	令和7年7月1日	株式会社YTE	写真掲載	「秘密のケンミンSHOW 極」SP#13（2022年10月20日放送）の借用素材（画像データ）を香港テレビ局 PCW での海外再放送に使用。	二十世紀梨 原木
9	令和7年7月2日	埼玉県立川の博物館	資料調査 写真撮影	令和7年度春季企画展「秩父札所」資料調査のため	大熊家文書、秩父の巡礼関係文書
10	令和7年9月	帝国書刊行会	写真掲載	書籍への掲載のため	異形台付土器（貝の花遺跡）
11	令和7年7月25日	株式会社ココロマチ	写真掲載	街の歴史を古写真で紹介する Web サイト「このまちアーカイブスの動画（youtube）版に再掲載するため	千葉大学工学部 昭和 28 年

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
12	令和7年7月15日	松戸市立博物館友の会	紙焼きコピー	松戸市立博物館友の会古文書部会のテキスト作成のため	土屋亮平家文書 2432 明治四年 御用留
13	令和7年7月	戎光祥出版	写真掲載	『中世城郭の新論点』に掲載のため	小金城および根本内城の空堀写真 各1点
14	令和7年7月17日	個人	調査・写真撮影	学術調査	磨製石斧（子と清水遺跡）1点
15	令和7年7月27日	下総考古学研究会	調査・写真撮影	学術調査	縄文土器（紙敷遺跡）9点
16	令和7年7月17日	サンケイリビング新聞社	写真撮影	柏高島屋ステーションモール公式 SNS・公式 HP 内『カシまっぷ』コーナーへの掲載のため	博物館外観1点、博物館エントランスホール2点、常盤平団地の再現展示 15点
17	令和7年9月21日	東京新聞 千葉支局	写真掲載	東京新聞千葉県版 9月21日情報コーナー告知記事掲載のため	葬式用祭壇 1点
18	令和7年10月2日	株式会社 CRAZY TV	写真掲載	テレビ番組（NHK総合「ひむバス！」千葉・松戸市編）で使用	上本郷源湯（広報課旧蔵写真）
19	令和7年9月17日	個人	写真掲載	<i>Global Ceramics: Concurrent Histories and Traditions</i> に掲載するため	脱穀盆（『ペルシャ文明の曙』No.29）
20	令和7年9月27日	古代オリエント博物館	写真掲載	企画展「やっぱりエジプトが好きー昭和のニッポンと古代のオリエント」で使用	小櫃氏家族写真2点
21	令和7年10月28日	テレビ朝日映像株式会社	写真掲載	フジテレビ「今夜はナゾトレ」にて番組内で団地の紹介・解説を目的として使用	常盤平団地の復元展示写真2点
22	令和8年2月25日	サイネット株式会社	写真掲載	帝国書院発行 高校地歴科教材「図説 日本史通覧」に掲載のため	石皿写真（子と清水遺跡）
23	令和7年11月9日	千葉縄文研究会	調査・写真撮影	学術調査	縄文土器 106点（幸田貝塚・重要文化財）
24	令和7年11月1日	八柱霊園管理事務所	写真掲載	八柱霊園開園 90 周年記念事業パネル展	河原塚1号墳ほか9点
25	令和7年10月15日	個人	転載	書籍に掲載するため	『松戸市立博物館 改訂版 常設展示図録』ほかから、7点の図版転載
26	令和7年10月25日	千葉市立郷土資料館	資料の熟覧・撮影	特別展示に関する資料調査	小金城跡第1地点（大谷口遺跡）・第6地点出土資料
27	令和7年11月26日	個人	資料の熟覧・撮影	論文作成に関する資料調査	大川五兵衛家文書ほか3点
28	令和7年12月10日	(株) ytb Nexter	展示室の撮影	番組制作の為	常盤平団地室内
29	令和8年1月24日	ロントラ株式会社	画像利用	BS朝日「自分流～“知”の探求者たち～」で使用	復元竪穴住居、石皿と磨石
30	令和7年12月12日	六高台三丁目町会	画像利用	松戸市六高台三丁目町会 催し 令和7年度2回うずらカフェ～郷土史講演パワーポイントで使用	小金御狩乃図 御前夜高柳の景・御狩場の景

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
31	令和8年2月7日	埼玉県立川の博物館	画像利用	「巡礼者は秩父を目指す！」展の 展示図録への掲載	『西国道中日記帳』 (大熊家文書 60) 『諸国参詣に付き御餞 別請納帳』(大熊家文書 492) 『秩父道中覚』 (大熊家文書 502) 『神仏掛物表具数帳』 (大熊家文書 1084)
32	令和7年12月16日	みどりと花の課	写真利用	① パブリックコメント実施時の 資料の松戸市街路樹の整備・ 管理に関するガイドライン (案) 及び当該概要版(案) ② パブリックコメント実施時の 資料の松戸市街路樹の整備・ 管理に関するガイドライン及 び当該概要版	常盤平団地中央商店街 交差点(1960年頃)HP の市立博物館学芸員に よる松戸の歴史解説「常 盤平団地 60 年の生活史 に向けて」ページにあ る写真 1
33	令和7年12月19日	常盤平駅周辺まちづく り推進課	写真利用	常盤平 SONO プロジェクトの活 動において使用	松戸市市立博物館調査 報告書 7「森の住宅都 市常盤平団地の住宅史 1960 - 2020」 掲載の写真 43 点
34	令和8年2月3日	個人	映像利用	教育・研究の資料とするため(鉄 道に関する同人誌制作の参考資 料とするため)	常磐線電化記念祝賀会 映像(昭和11年)
35	令和8年3月14日	京成電鉄株式会社	写真利用	講演会「線路が語る新京成電鉄 の歴史 鎌ヶ谷初富駅が終着駅 だった頃」(鎌ヶ谷市立図書館) における講演資料への掲載のた め	新京成電鉄(昭和28年 末～同29年初頃)
36	令和8年3月10日	個人	写真利用	書籍に掲載するため	「富士三十六景 下総小 金原」ほか6点
37	令和8年3月21日	鎌ヶ谷市郷土資料館	写真利用	第31回ミニ展示「交差するまち へ2～鎌ヶ谷今昔物語～」に展 示するため	新京成電鉄(昭和28年 末～同29年初頃)

(4) 資料の燻蒸等

[収蔵庫燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする密閉燻蒸を行った。

期 間：令和7年6月16日（月）～6月23日（月）

対 象：第1～第4収蔵庫

委 託 先：関東港業（株）

使用薬剤：酸化プロピレンとアルゴンの混合剤（商品名アルプ）

[連携特別展・館蔵資料展資料燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を行った。

期 間：令和7年11月18日（火）～12月2日（火）

対 象：展示資料

委 託 先：関東港業（株）

使用薬剤：二酸化炭素（炭酸ガス）

[野外展示・復元竪穴住居]

殺虫を目的とする駆除作業を行った。

期 間：令和7年6月16日（月）～6月23日（月）

対 象：復元竪穴住居3棟

委 託 先：関東港業（株）

使用薬剤：フェノトリン炭酸製剤（商品名ミクラン S）

7 令和7年度 企画展・館蔵資料展アンケート結果

■ 調査方法と設問内容

アンケート用紙を企画展示室前ロビーに置き、利用者の任意に任せた調査票自己記入式で行った。

各アンケートに共通する設問は、回答者の年齢、住所、来館回数、博物館に関する情報をどうやって入手したか、交通手段、職業、行動グループ、展示についての印象・感想である。

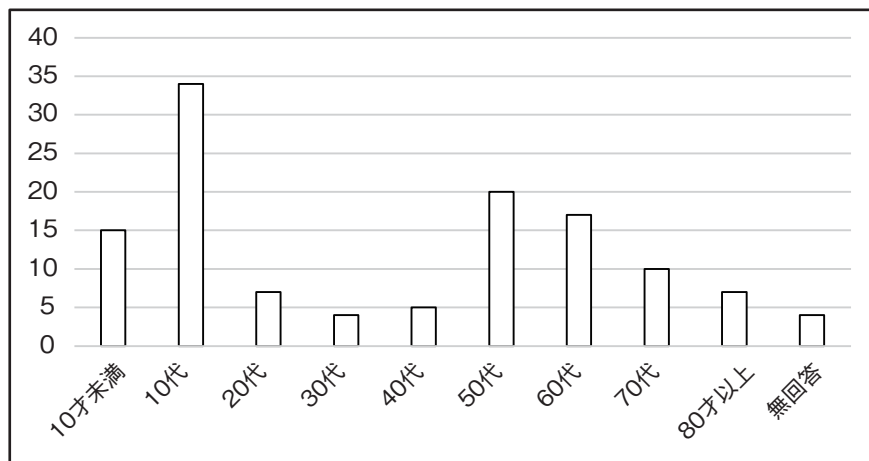
以下に、回答者の傾向を端的に示した“年齢”、“来館回数”及び“満足度”という計3項目の結果を取り上げる。

※総務部総務課主催の『松戸市平和祈念展「未来へとつなぐ平和」』は掲載していない。

(1) 連携特別展「まつど×とくがわー昭武・武定の生きた明治・大正・昭和ー」

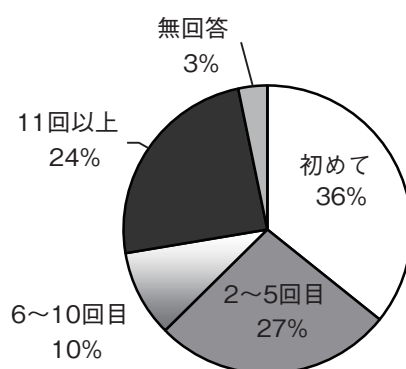
- 観覧者数 3,683 人（松戸市立博物館のみ）
- アンケート有効回答者数 123（回答率 3.3 %）
- 調査期間 令和7年7月12日（土）～8月31日（日）
- 回答者の年齢（件）

10才未満	15
10代	34
20代	7
30代	4
40代	5
50代	20
60代	17
70代	10
80才以上	7
無回答	4
計	123



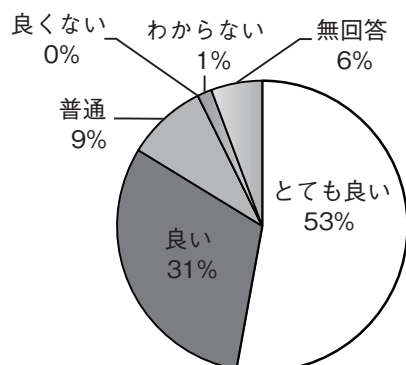
■ 来館回数（件）

初めて	44
2～5回目	33
6～10回目	12
11回以上	30
無回答	4
計	123



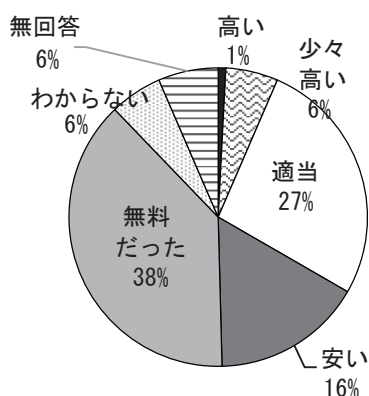
■ 回答者の満足度（件）

展示について	
とても良い	65
良い	38
普通	11
良くない	0
わからない	2
無回答	7
計	123



■ 観覧料について (件)

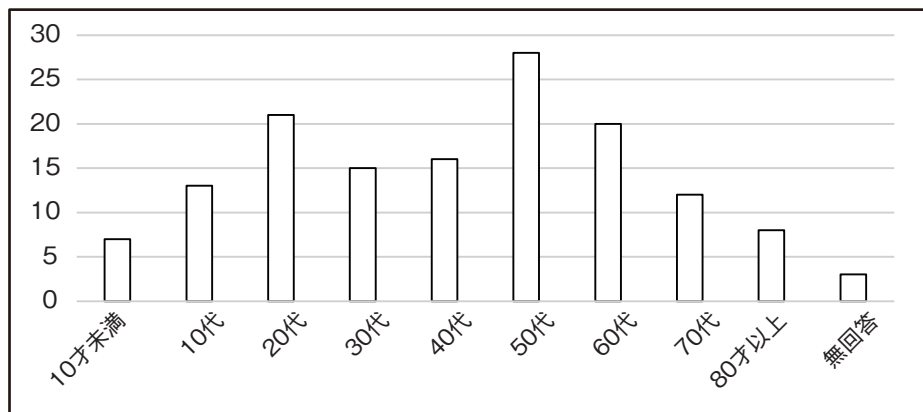
高い	1
少々高い	7
適当	33
安い	20
無料だった	47
わからない	7
無回答	8
計	123



(2) 館蔵資料展「誕生・結婚・死の儀ー人生の始まり方 終い方ー」

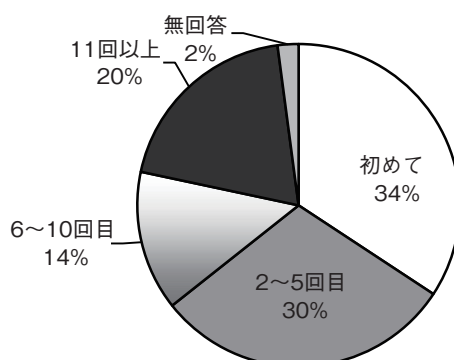
- 観覧者数 5,796 人
- アンケート有効回答者数 143 件 (回答率 2.5%)
- 調査期間 令和7年9月20日(土)～11月3日(月・祝)
- 回答者の年齢 (件)

10才未満	7
10代	13
20代	21
30代	15
40代	16
50代	28
60代	20
70代	12
80才以上	8
無回答	3
計	143



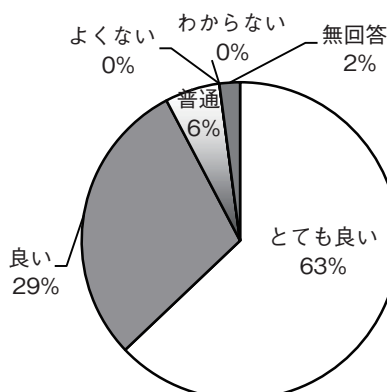
■ 来館回数 (件)

初めて	49
2～5回目	43
6～10回目	20
11回以上	28
無回答	3
計	143



■ 回答者の満足度 (件)

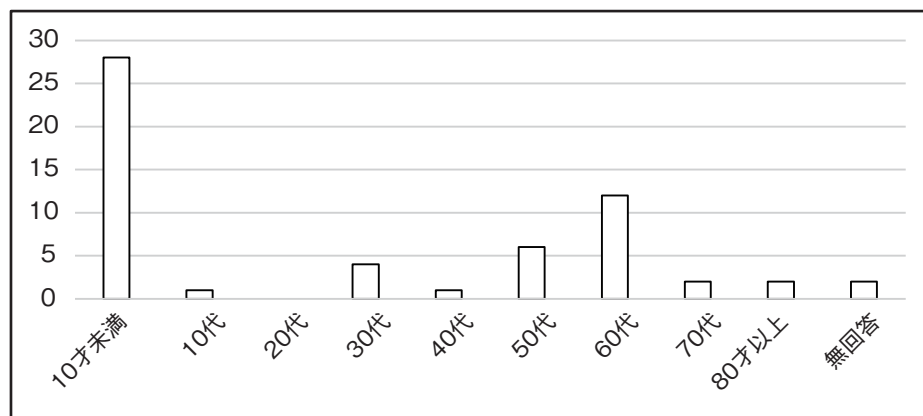
展示について	
とても良い	90
良い	42
普通	8
良くない	0
わからない	0
無回答	3
総計	143



(3) 博学連携展示「松戸探検 100 年前からのくらしのうつりかわり」

- 観覧者数 1,200 人
- アンケート有効回答者数 58 件（回答率 4.8%）
- 調査期間 令和 8 年 2 月 7 日（土）～ 2 月 22 日（日） 会場：松戸市文化ホール
- 回答者の年齢（件）

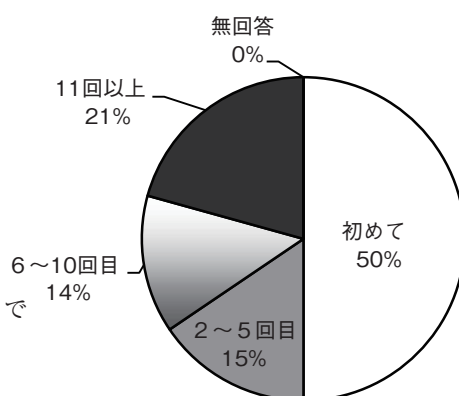
10才未満	28
10代	1
20代	0
30代	4
40代	1
50代	6
60代	12
70代	2
80才以上	2
無回答	2
計	58



■ 来館回数（件）

初めて	29
2～5回目	9
6～10回目	8
11回以上	12
無回答	0
計	58

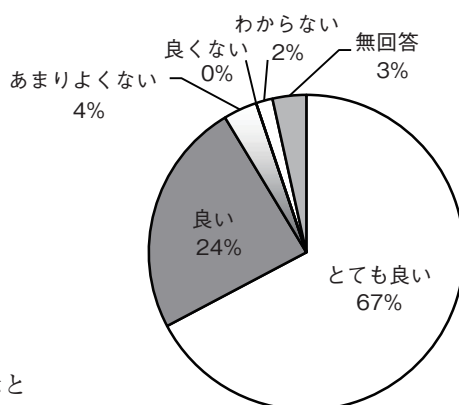
※松戸市文化ホールのみのデータである。



■ 回答者の満足度（件）

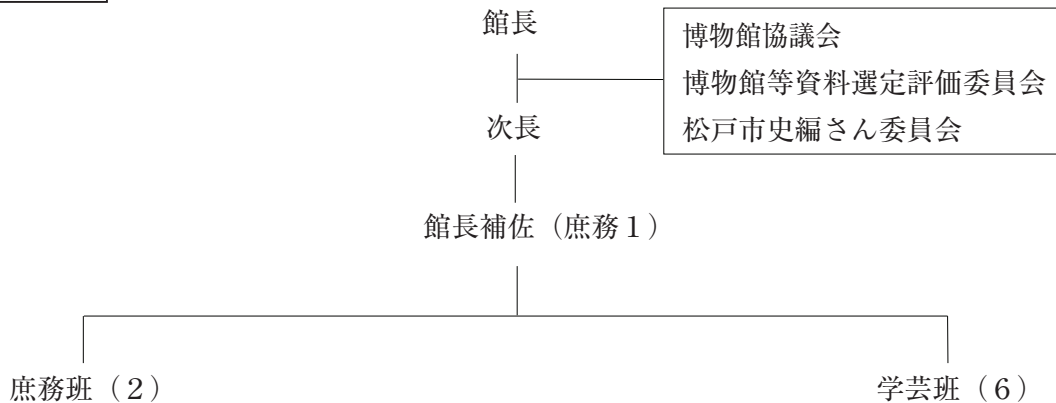
展示について	
とても良い	39
良い	14
あまりよくない	2
良くない	0
わからない	1
無回答	2
総計	58

※なお、満足度の選択肢は他展示と異なる。



IV 組織と運営

1 組織



2 歳出予算

(単位 千円)

事業 科目	予算額	博物館管理運営事業					
		博物館協議会委員	博物館等資料 選定評価委員会委員	施設関係	展示	学習支援	歴史資料収集調査
報酬	304	204	100	0	0	0	0
報償	970	0	0	0	330	350	290
旅費	100	0	0	0	0	0	100
需用	36,661	0	0	24,279	7,492	1,757	3,133
役務	2,300	0	0	863	984	130	323
委託	145,774	0	0	132,594	6,861	17	6,302
使用	6,567	0	0	4,338	1,403	612	214
工事	0	0	0	0	0	0	0
原材	18	0	0	18	0	0	0
備品	1,977	0	0	0	345	100	1,532
負担	89	0	0	0	0	0	89
計	194,760	204	100	162,092	17,415	2,966	11,983

3 事務事業

事務事業名	事務事業の主な内容
博物館協議会委員	博物館の運営に関し館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる。博物館協議会において適切な事業方針を審議する。
博物館等資料選定評価委員会委員	松戸市立博物館及び松戸市戸定歴史館が行う資料の収集に関し、学識経験を有する者の意見等を求める。
施設関係	施設の維持管理を目的としており、館利用者が安全で快適な環境で学習できるよう施設を整備する。
展示	総合資料展・主題展示・野外展示・映像展示で構成し、市民に郷土と歴史と文化への理解を深めてもらう。また、年4回程度、企画展、資料展、博学連携展を実施する。
学習支援	歴史講座・体験講座・講演会等の開催、デジタル情報の提供、学校教育との連携などを図り、松戸の歴史文化等にかかわる最新情報を様々な媒体を通して提供する。
歴史資料収集調査	松戸を中心とする歴史・文化・自然史等に関する資料の収集・保存及び調査研究を行い市民の共有の資産として後世に伝える。
市史編さん	市民に郷土の歴史を知ってもらい、郷土に対する誇りを育てるため、松戸市史編さんを行う。平10年度に市長から諮問のあった『松戸市史 上巻』の改訂については、平成26年度に『松戸市史上巻 (改訂版)』の刊行を行ったので、現在は、市長からの諮問案件はない。

4 各種委員会等

(1) 博物館協議会

委員名簿

(令和8年3月31日)

区分	氏名	役職等
1号委員 学校関係者	深沢 久	松戸市立小金北小学校 校長
	川上 俊輔	松戸市立栗ヶ沢中学校 教諭
2号委員 社会教育関係者	蒲生誠一郎	松戸市立博物館友の会相談役
	谷鹿 栄一	千葉県立房総のむら主任上席研究員
3号委員 家庭教育の向上 に資する活動を行 う者	加藤 教子	NPO法人 松戸子育てさばーと ハーモニー副理事長
	頓田絵里子	松戸市子ども会育成会連絡協議会役員
4号委員 学識経験者	佐藤 孝之	東京大学名誉教授(近世史)
	小島 孝夫	成城大学教授(民俗学)
	日高 慎	東京学芸大学教授(考古学)
	駒見 和夫	明治大学教授(博物館学)

任期2年 令和9年9月30日まで

第1回協議会

令和7年8月3日

会場：博物館実習室

議題：(1)松戸市立博物館リニューアル基本構想・
基本計画について
(2)連携特別展の内覧

第2回協議会

令和7年11月2日

会場：松戸市立博物館実習室

議題：(1)会長・副会長の互選について
(2)松戸市立博物館リニューアル基本構想・
基本計画における外部評価について
(3)連携特別展・館蔵資料展の報告
(4)館蔵資料展の内覧

第3回協議会

令和8年2月26日

会場：教育委員会5階会議室

議題：(1)松戸市立博物館一時休館と再開につ
いて
(2)松戸市立博物館リニューアル基本構想・
基本計画事業評価について

(2) 博物館等資料選定評価委員会

委員名簿

(令和8年3月31日)

氏名	専門	役職等
佐野 賢治	民俗	神奈川大学名誉教授
岡塚 章子	写真	江戸東京博物館 都市歴史研究室長
久保田昌希	歴史	駒澤大学名誉教授
望月 幹夫	考古	東京国立博物館客員研究員
小泉 雅弘	歴史	駒澤大学教授

任期2年 令和9年3月31日まで

令和7年度の開催無し

(3) 松戸市史編さん委員会

※「3 事務事業」にて記載のとおり、平成10年度に市長から諮問のあった事業については、平成26年度で終了したので、現在市長からの諮問はない。

5 博物館利用者数の統計

利用者総計

利用者の内訳は以下の通りである。

常設展示観覧者数(令和7年4月1日～令和7年12月31日※) ※一時休館のため、令和7年12月31日までの実績

月	開館 日数	有料観覧者(人)					無料観覧者数(人)									観覧者 総計
		個人		団体		有料 観覧者 計	学習 活動	身体 障害者	70歳以 上	中学生 以下	視察等	友の会	無料 開放日	無料 観覧者 数		
		一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生											
4	25	601	23	0	0	624	157	85	50	238	27	29	464	1,050	1,674	
5	26	740	35	0	0	775	375	63	31	267	21	1	818	1,576	2,351	
6	18	492	35	62	0	589	459	67	14	188	4	3	233	968	1,557	
7	27	292	30	570	27	919	202	91	32	346	95	6	0	772	1,691	
8	27	194	20	1,011	48	1,273	131	118	84	615	296	6	0	1,250	2,523	
9	25	1,013	48	0	0	1,061	61	113	28	301	11	1	0	515	1,576	
10	27	1,120	55	39	0	1,214	226	112	79	248	6	8	0	679	1,893	
11	26	1,044	54	0	0	1,098	818	106	103	324	10	5	804	2,170	3,268	
12	22	655	52	0	0	707	0	80	50	217	11	17	0	375	1,082	
合計	223	6,151	352	1,682	75	8,260	2,429	835	471	2,744	481	76	2,319	9,355	17,615	

企画展等観覧者数(令和7年4月1日～令和8年3月31日)※観覧者数は令和7年4月1日から5月18日までの実績

展覧会	開催期間	開館 日数 (日)	有料観覧者数(人)					無料観覧者数(人)								観覧者 総計
			個人		団体		有料 観覧者 計	学習 活動	障害者	70歳 以上	中学生 以下	視察等	友の会	無料 開放日	無料 観覧者 数	
			一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生										
博学連携展示「松戸探検 100 年 前からのくらしのうつり かわり」	R7.1.15～ R7.5.18	41														4,495 ※
連携特別展「まつど×とくがわ ー昭武・武定の生きた明治・ 大正・昭和ー」	R7.7.12～ R7.8.31	44	232	4	1,531	75	1,842	237	195	115	894	400	0	0	1,841	3,683
館蔵資料展「誕生・結婚・死の 儀礼ー人生の始まり方 終い方 ー」	R7.9.20～ R7.11. 3	39														5,796
松戸市平和祈念展「未来へと つなぐ平和」	R7.11.18～ R7.11.30	12														2,062
博学連携展示「松戸探検 100 年 前からのくらしのうつり かわり」※出張展示	R8.2.7～ R8. 2.22	14														1,200
小計																17,236
第 10 回博物館アワード作品展	R7.12.10 ～R7.12.25	14														1,005
計																18,241

博物館無料ゾーン利用者

※令和7年度は空調工事による一時休館のため12月末までの総計

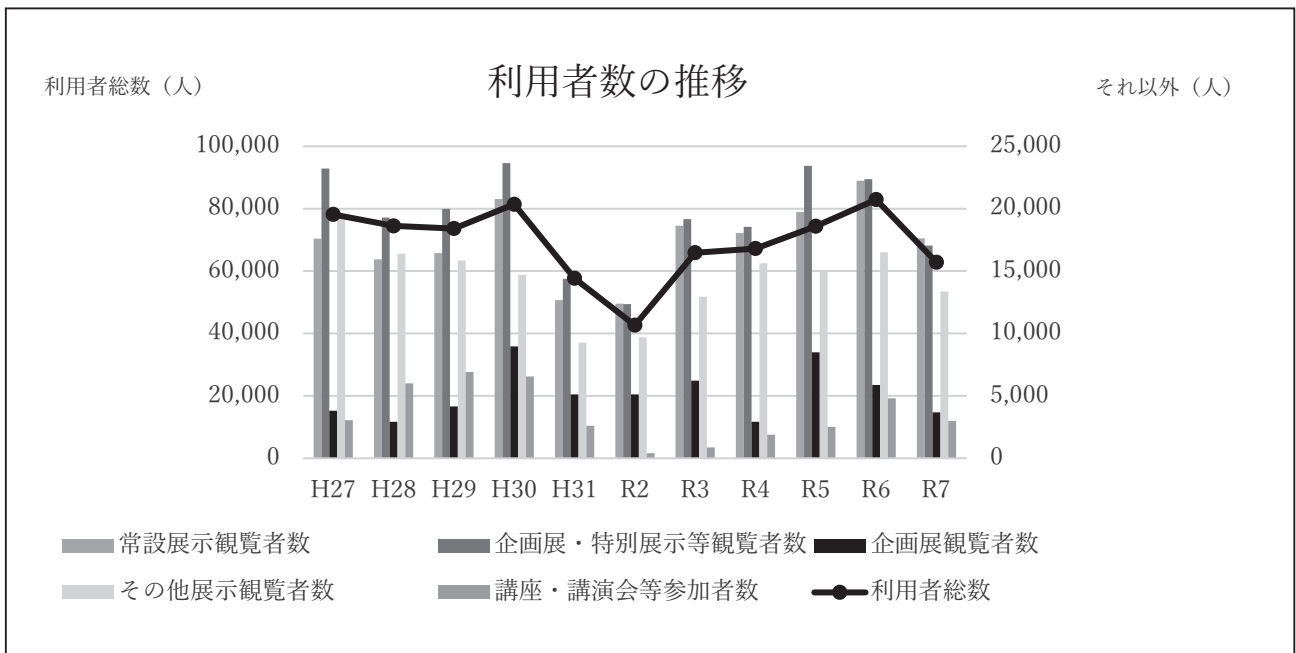
博物館施設名	プレイルーム	シアター	野外展示	講座・講演会参加者	合計
日 数 (日)	223	216	218	－	－
利用者総 (人)	10,575	840	13,740	2,995	28,150 ※

博物館利用者総計

	令和7年度	令和6年度	前年度比較
常設展示観覧者数	17,615	22,234	△ 4,619
企画展・特別展示等観覧者数	18,241	22,366	△ 4,125
博物館無料ゾーン利用者	28,150	38,313	△ 10,163
利用者総計（人）	64,006	82,913	△ 18,907

博物館利用者総数の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
利用者総数	78,148	74,481	73,628	81,412	57,676	42,645	65,885	67,215	74,370	82,913	64,006
常設展示観覧者数	17,593	15,942	16,437	20,777	12,666	12,389	18,636	18,058	19,720	22,234	17,615
企画展・特別展示等観覧者数	23,220	19,288	19,985	23,653	14,381	12,353	19,160	18,548	23,428	22,366	18,241
うち 企画展観覧者数	3,809	2,917	4,153	8,959	5,109	4,671	6,216	7,521	8,489	5,866	3,683
その他展示観覧者数	19,411	16,371	15,832	14,694	9,272	7,682	12,944	11,027	14,939	16,500	14,558
講座・講演会等参加者数（人）	3,052	5,999	6,910	6,554	2,598	399	861	1,886	2,512	4,804	2,995



6 来訪者

令和7年

6月22日	東京新聞取材
7月4日	読売新聞取材
7月10日	松戸経済新聞取材
7月10日	千葉日報取材
7月10日	朝日れすか取材
8月20日	東京新聞取材
9月19日	松戸経済新聞取材
9月19日	千葉日報取材
12月17日	J：COM 取材

令和8年

1月27日	松戸経済新聞取材
2月7日	J：COM 取材
3月24日	松戸経済新聞取材

V 条例・規則

松戸市立博物館条例

(平成4年9月24日 松戸市条例第28号)

(趣旨)

第1条 この条例は、松戸市立博物館（以下「博物館」という。）の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
松戸市立博物館	松戸市千駄堀 671 番地

(管理)

第3条 博物館は、松戸市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。

(職員)

第4条 博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(事業)

第5条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、自然史等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、フィルム等の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に係る電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を作成し、公開すること。
- (3) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (4) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (5) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (6) 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (7) 他の博物館、美術館、文書館、図書館、学校その他学術又は文化に関する施設との相互協力に関すること。
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

(観覧料)

第6条 博物館に展示されている博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を

納入しなければならない。

2 教育委員会は、特に必要と認める場合においては、前項の観覧料を免除することができる。

3 既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、返還することができる。

(入館の制限及び退館)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を禁止し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。
- (2) 博物館の施設、展示品等を損壊するおそれのあるとき。
- (3) その他博物館の管理上支障があるとき。

(博物館協議会)

第8条 博物館法（昭和26年法律第285号）第23条第1項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員10人以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して8か月を超えない範囲内において教育委員会が規則で定める日から施行する。

(平成5年3月松戸市教育委員会規則第2号で、同5年4月29日から施行)

附 則(平成10年3月27日松戸市条例第11号)

この条例は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年6月21日松戸市条例第23号)

この条例は、平成 13 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 3 月 30 日松戸市条例第 11 号)

この条例は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 24 年 3 月 29 日松戸市条例第 7 号)

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 3 月 26 日松戸市条例第 18 号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成 31 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(令和 5 年 3 月 30 日松戸市条例第 6 号)

この条例は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

別表(第 6 条関係)

区 分	観覧料(1人1回につき)	
	個人	団体(20人以上)
常設展示	一般	310 円
	高校生・大学生	250 円
	中学生以下	150 円
企画・特別展示	中学生以下	100 円
	無料	無料
	無料	無料

次の各号に掲げる額を超えない範囲内において、その都度展示内容に応じ、教育委員会が定める。ただし、中学生以下の者に係る観覧料にあっては、無料とする。

- (1) 一般 1,200 円
(共通観覧料については、1,440 円)
- (2) 高校生・大学生 600 円
(共通観覧料については、700 円)

松戸市立博物館管理運営規則

(平成 5 年 3 月 26 日松戸市教育委員会規則第 3 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、松戸市立博物館条例(平成 4 年松戸市条例第 28 号。以下「条例」という。)

第 9 条の規定により、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第 2 条 博物館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。ただし、博物館への入館時間は、午後 4 時 30 分までとする。

2 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、必要と認めるときは、前項に規定する開館時間及び入館時間を変更することができる。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に休館し、又は休館日を変更することができる。

- (1) 月曜日
- (2) 1 月 1 日から 4 日まで及び 12 月 28 日から 31 日まで

(3) 館内整理日(毎月第 4 金曜日とする。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日(以下「祝日法による休日」という。)である場合は、この限りでない。)

2 前項第 1 号の規定にかかわらず、同号に規定する日が祝日法による休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日でない日を休館日とする。

(観覧券の交付)

第 4 条 条例第 6 条第 1 項の規定により、所定の観覧料を徴収したときは、観覧券(第 1 号様式)を交付するものとする。

(観覧料の免除等)

第 5 条 条例第 6 条第 2 項の規定により、観覧料を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 高校生、大学生及び大学生以下の者を引率する者が教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。
- (2) 博物館が開催する講演会、講習会、研究会等に参加する者が観覧するとき。
- (3) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人(手帳の交付を受けている者 1 人につき 1 人に限る。)が観覧するとき。
- (4) 市内に居住する 70 才以上の者が観覧するとき。

(5) 県民の日を定める条例(昭和 59 年千葉県条例

第 3 号)第 2 条に定める日に観覧するとき。

(6) その他教育委員会が必要と認めたとき。

2 観覧料の免除を受けようとする者で前項第 1 号に該当するものは、あらかじめ博物館観覧料免除申請書(第 2 号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(観覧料の返還)

第 6 条 条例第 6 条第 3 項ただし書の規定により、観覧料の返還を受けようとする者は、博物館観覧料返還申請書(第 3 号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(資料の貸出し)

第 7 条 教育委員会は、次の各号に掲げる者に対し、博物館業務に支障がないと認めるときは、博物館で所蔵する資料を貸し出すことができる。

- (1) 国立博物館、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 2 条第 1 項の規定による博物館及び同法第 31 条第 1 項の規定により博物館に

相当する施設として指定を受けた施設の設置者

(2) 前号に掲げる者のほか、教育委員会において特に認める者

2 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出申請書（第4号様式）を教育委員会に提出し、博物館資料貸出許可書（第5号様式）の交付を受けなければならない。

3 博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを延長することができる。

(文献等の閲覧等)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、博物館で所蔵する資料のうち文書及び図書（以下「文献等」という。）の閲覧又は複写（文書については、マイクロフィルムに保存されているものに限る。）をさせることができる。

2 文献等を閲覧しようとする者は、博物館文献等閲覧許可申請書（第6号様式）を教育委員会に提出し、博物館文献等閲覧許可証（第7号様式）の交付を受けなければならない。

3 博物館文献等閲覧許可証の有効期間は、交付の日から1年とする。

4 文献等の複写を希望する者は、博物館文献等複写申請書（第8号様式）により教育委員会の許可を受けなければならない。

(閲覧又は複写の制限)

第9条 教育委員会は、次の各号に掲げる文献等の閲覧又は複写を許可しないものとする。

(1) 未公開及び未整理のもの

(2) 保存に影響を及ぼすおそれがあると認められるもの

(3) 寄託された文献等で寄託者の同意を得ていないもの

(4) その他教育委員会が不適当と認めたもの

(入館者の遵守事項)

第10条 博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 施設、設備、展示資料等を汚損し、又は損傷しないこと。

(2) 許可なく展示資料の写真撮影、模写等の行為を行わないこと。

(3) 所定の場所以外において喫煙し、飲食し、又は火気を使用しないこと。

(4) 無断で広告その他これに類するものを掲示又は配布しないこと。

(5) 他人に危害を加え、又は迷惑となる行為をしないこと。

(6) 前各号に定めるもののほか、教育委員会

の指示に従うこと。

(所掌事務)

第11条 博物館の所掌事務は、別表のとおりとする。

(職務)

第12条 館長は、博物館の事務を掌理し、職員を指揮監督する。

2 次長は、館長を補佐し、所属の事務を統轄する。

3 館長補佐は、館長及び次長を補佐する。

4 その他の職にある者は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

(博物館協議会の会長等)

第13条 条例第8条第1項に規定する博物館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(博物館協議会の会議等)

第14条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 協議会は、特に必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

5 協議会の会議は、公開を原則とする。ただし、協議会において会議を公開しないと認めたときは、この限りでない。

6 協議会の庶務は、文化財保存活用課において処理する。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(委任)

第15条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成5年4月29日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第10号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成7年3月2日松戸市教育委員会規則第5号)

この規則中、第5条第1項の改正規定は平成7年4月1日から、第11条に1号を加える改正規定は公布の日から施行する。

附 則(平成8年3月14日松戸市教育委員会規則第3号)
この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年3月26日松戸市教育委員会規則第9号)
この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年7月11日松戸市教育委員会規則第12号)
この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成14年3月4日松戸市教育委員会規則第1号)
この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日松戸市教育委員会規則第8号)
この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市教育委員会規則第3号)
この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成30年3月13日松戸市教育委員会規則第2号)
この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月29日松戸市教育委員会規則第6号)
この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和5年1月30日松戸市教育委員会規則第1号)
この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則(令和8年3月31日松戸市教育委員会規則第3号)
この規則は、令和8年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

- ・博物館の要覧及び年報の作成に関すること。
- ・博物館協議会に関すること。
- ・資料選定評価委員会に関すること。
- ・市史編さんに関すること。
- ・市史編さん委員会に関すること。
- ・関係団体との連絡調整に関すること。
- ・資料の収集、保存及び展示に関すること。
- ・資料の調査及び研究に関すること。
- ・資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関すること。
- ・資料に関する目録、解説書、図録、調査研究、報告書等の作成に関すること。
- ・資料に関する相談、情報提供に関すること。
- ・博物館資料に関する閲覧、貸出等についての許可に関すること。
- ・博物館資料の寄贈、寄託に関すること。
- ・他の博物館、図書館、学校等との連絡及び協力に関すること。
- ・その他博物館の専門的事項に関すること。

第1号様式～第8号様式 省略

松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例

(平成26年12月25日松戸市条例第28号)

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、松戸市立博物館等資料選定評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、松戸市立博物館及び松戸市戸定歴史館における歴史に関する資料(以下「歴史資料」という。)の収集を適正かつ円滑に行うため、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 歴史資料の真がんに関する事項
- (2) 歴史資料の価格の適否に関する事項
- (3) 歴史資料の寄贈及び寄託の受入れ又は購入の適否に関する事項
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから教育委員会が委嘱する。

2 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また、同様とする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第6条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の専門的知識を有する者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。(特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例の一部改正)

2 特別職の職員の給与及び費用弁償の支給に関する条例(昭和31年松戸市条例第15号)の一部を次のように改正する。

別表2に次のように加える。

松戸市立博物館等資料選定評価委員会委員	日額 20,000 円
---------------------	-------------

※「松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱」については、「松戸市立博物館等資料選定評価委員会条例」(平成26年12月25日松戸市条例第28号)として条例化されたことに伴い、平成27年3月31日付で廃止となった。

松戸市史編さん委員会条例

(昭和55年3月26日松戸市条例第3号)

(設置)

第1条 郷土をより深く理解することによつて市民の愛郷心を振起させ、あわせて市勢発展の基礎資料となる松戸市史を編さんするために、松戸市史編さん委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史の編さんについて調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、5人の編さん委員で組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

(1) 学識経験者

(2) 市の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、

補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代理する。

(招集及び会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和55年4月1日から施行する。(松戸市誌編さん委員会条例の廃止)

2 松戸市誌編さん委員会条例(昭和28年松戸市条例第23号)は、廃止する。

(松戸市役所部課設置条例の一部改正)

3 松戸市役所部課設置条例(昭和38年松戸市条例第3号)の一部を次のように改正する。

第2条総務部の項中「市誌編さん」を「市史編さん」に改める。

松戸市立博物館研究員設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の資料整備並びに学校教育及び社会教育における博物館の活用に関し、専門的な調査研究に資するため、博物館に研究員をおく。

(定数)

第2条 研究員の定数は、8人を超えない範囲内において、館長が定める。

(委嘱)

第3条 研究員は、博物館の業務に関し、学識経験を有する者のうちから、博物館館長が委嘱する。

(任期)

第4条 研究員の任期は、1年とする。ただし、年度中途に委嘱された研究員の任期は、当該年度末までとする。

(職務)

第5条 研究員は、次に掲げる職務に従事する。

(1) 博物館の資料の収集、保管、展示等に関する専門的、技術的な調査研究

(2) 学校教育及び社会教育における博物館の活用に関する専門的な調査研究

- (3) その他博物館の事業に関する専門的な調査研究

(会議)

第6条 館長は、研究員の職務の円滑な遂行を図るため、必要と認めるときは、研究員の会議を開催することができる。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年12月1日から施行する。

博物館資料の利用に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館管理運営規則（平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第3号）に定めるもののほか、松戸市立博物館（以下「博物館」という。）の博物館資料（博物館法（昭和26年12月1日法律第285号）第2条第4項に規定する博物館資料をいう。）の利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(資料の館外貸出し)

第2条 博物館資料（以下「資料」という。）の貸出しを受けたものは、任意の書式による当該資料の借用書を提出するものとする。

2 資料の貸出しを受けたものは、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の技能を有すると認められる者が行うこと。
- (2) 貸出資料の保管等のために要する費用は、全て貸出しを受けたものが負担すること。
- (3) 貸出資料を博物館資料貸出許可書（松戸市立博物館管理運営規則第5号様式）に記載された貸出目的以外の用に供してはならないこと。
- (4) 博物館資料貸出許可書に記載された事項を遵守すること。
- (5) 貸出資料を展示する場合は原則としてケース内展示とし、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。
- (6) 貸出しを受けたものが貸出資料を滅失し又は毀損したときは、これによって生じた損害を賠償すること。
- (7) 博物館職員の指示に従うこと。
- (8) その他必要と認める条件。

3 貸出の条件に反する行為があるとき又は館

務の都合により必要があるときは、貸出期間中であっても当該博物館資料の返還を求めることができる。この場合において生じた損害については、教育委員会はその責を負わないものとする。

(特別利用の申し込み)

第3条 資料を学術上の研究等のため特に利用しようとするものは、博物館資料特別利用申込書（様式第1号）を提出し、博物館資料特別利用承認書（様式第2号）の交付を受けるものとする。この場合において、対象の資料が寄託資料であるときは、所有者の承諾書を合わせて提出しなければならない。

2 前項の規定に関わらず、利用しようとする資料が博物館が所有し若しくは著作権を保有する写真資料等又は映画の著作物の場合は、写真資料等特別利用申込書（様式第3号）又は映像資料特別利用申込書（様式第4号）を提出し、写真資料等特別利用承認書（様式第5号）又は映像資料特別利用承認書（様式第6号）の交付を受けるものとする。

3 特別利用の承認を受けたものは、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 承認書に記載された目的以外の用に供してはならないこと。
- (2) 承認書に記載された事項を遵守すること。
- (3) 出版物等に掲載する場合は松戸市立博物館所蔵の旨を明示し、博物館（寄託資料にあつては博物館及び資料の所有者）に当該出版物等を1部寄贈すること。
- (4) 利用にあたっては、博物館職員の指示に従うこと。
- (5) その他必要と認める条件。

(寄贈)

第4条 博物館に資料を寄贈しようとするものは、博物館資料寄贈申込書（様式第7号）を提出し、博物館資料受領書（様式第8号）の交付を受けるものとする。

(寄託)

第5条 博物館に資料を寄託しようとするものは、博物館資料寄託申込書（様式第9号）を提出し、博物館資料受託書（様式第10号）の交付を受けるものとする。

2 受託した博物館資料の館外貸出及び特別利用は、寄託者の承諾がある場合のほかは、行うことができない。

3 博物館資料の寄託期間は、受託した日の属する年度の4月1日から起算して1年とする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、期

間を延長することができる。

4 寄託者が寄託期間の満了前に寄託契約を終了し資料の返還を求めるときは、寄託資料返還申込書（様式第 11 号）を提出するものとし、資料の返還を受けた後に教育委員会に任意の書式による受領書を提出するものとする。

5 博物館資料受託書を滅失又は破損したときは、寄託者はこれらの事由を記載した書面を提出して博物館資料受託書の再交付を受けなければならない。

（寄託資料の一時返還）

第 6 条 寄託資料の一時返還を求めるときは、寄託資料一時返還申込書（様式第 12 号）を提出する。

2 一時返還の期間は 60 日を限度とする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、期間を延長することができる。

（寄託資料の所有者変更）

第 7 条 寄託者の都合により受託資料の所有権が移転するときは、寄託者は寄託資料所有者変更届（様式第 13 号）又は博物館資料寄託申込書（様式第 9 号）を提出し、新たに博物館資料受託書（様式第 10 号）の交付を受けなければならない。

（資料の一時預かり）

第 8 条 博物館が調査のためにその所有に属さない資料の一時預かりをするときは、資料一時預かり書（様式第 14 号）を交付し、資料を返却したときは資料受領書（様式第 15 号）を受領するものとする。

（様式）

第 9 条 前条までの規定に関わらず、教育委員会が必要と認めるときは他の書式により行うことができる。

（委任）

第 10 条 この要綱の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

1 この要綱は、令和 5 年 7 月 1 日から施行する。

2 松戸市立博物館資料取り扱い及び特別利用に関する要綱（平成 5 年 12 月 1 日施行）は廃止する。

松戸市立博物館紀要投稿規程

（目的）

第 1 条 この規程は、松戸市立博物館紀要（以下「紀要」という。）への投稿に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（資格）

第 2 条 紀要に投稿することができる者は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 投稿時において松戸市立博物館の職員である者
- (2) 投稿時において松戸市立博物館の研究員である者
- (3) 過去において松戸市立博物館の職員であった者
- (4) 松戸市立博物館が投稿を依頼した者
- (5) その他松戸市教育委員会が適当と認めた者

（審査）

第 3 条 原稿の掲載の可否は、松戸市立博物館紀要査読規程（平成 23 年 10 月 1 日施行。以下「査読規程」という。）にもとづいて松戸市立博物館紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）で査読の上決定し、著者に通知するものとする。

（投稿区分と枚数）

第 4 条 紀要の投稿区分と枚数は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 論文 70 枚以内（400 字詰原稿用紙換算）
- (2) 研究ノート 50 枚以内（同上）
- (3) 資料紹介 30 枚以内（同上）
- (4) その他 編集委員会の定めるところによる

2 前項の枚数には、本文、注、参考文献、図表を含めるものとする。

3 投稿する原稿は、未発表のものに限る（刊行予定のものは既発表とみなす）。

（投稿形式）

第 5 条 投稿の形式は、原則として電子文書によるものとし、電子メールの添付ファイルとして送信し、又は電子媒体を編集委員会事務局宛てに送付する方法によるものとする。併せて、電子文書とは別に、紙媒体に印字された原稿を一部送付する。

2 前項の規定にかかわらず、編集委員会が特に必要と認めたときは、紙媒体による投稿をすることができる。この場合における投稿部数は、4 部とする。

3 前 2 項の原稿を投稿するときは、図 1 に示す投稿票を添付するものとする。

(締切)

第6条 投稿の締め切りは、毎年10月31日とする。

(校正)

第7条 原稿が受理された後の本文の書き直しは、校正（明らかな誤字脱字を訂正することをいう。）を除き、これを認めない。

2 前項に規定する校正には、松戸市立博物館紀要執筆要領（以下「執筆要領」という。）にもとづいて形式を訂正することを含む。

3 著者による校正は初校のみとし、再校以後は編集委員会事務局が行うものとする。

(別刷の取り扱い及び掲載誌の贈呈)

第8条 著者には著作が掲載された号の紀要を5部贈呈する。

2 別刷が必要なときは、投稿時に編集委員会事務局あて必要部数を通知するものとし、別刷の作成に必要な経費は著者が負担する。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規定は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

図1（用紙規格 J I S A 5）

投稿票

氏 名	
タイトル	
投稿区分	
原稿枚数（400字詰 原稿用紙換算）	

松戸市立博物館紀要編集委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）の設置に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 編集委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議するものとする。

(1) 松戸市立博物館紀要に投稿された原稿の掲載の可否に関すること。

(2) その他松戸市立博物館紀要の編集・発行に関し必要な事項

(構成)

第3条 編集委員会の委員は、学識経験を有する者及び関係機関の職員のうちから2名以上の者を松戸市立博物館長（以下「館長」という。）が指名する。

2 編集委員会の委員長は、館長をもってあてる。

(会議)

第4条 編集委員会の会議は委員長が招集し、自ら議長となる。

(意見の聴取)

第5条 編集委員会は、会議に編集委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 編集委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

松戸市立博物館紀要査読規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要（以下「紀要」という。）に投稿された原稿の査読に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(査読)

第2条 松戸市立博物館紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）は、紀要に投稿された論文、研究ノート及び資料紹介（以下「論文等」という。）について査読を行い、その結果を投稿者に通知するものとする。

2 編集委員会は、必要に応じて編集委員以外の者に査読を依頼することができる。

(査読方法)

第3条 編集委員会は、査読対象の論文等に関し、別表1に掲げる事項について評価を行う。

(判定)

第4条 編集委員会は、前条の評価に基づいて別表2に掲げる4段階の判定を行う。

2 前項の判定は、編集委員の過半数の賛成によって行うものとする。

(委任)

第5条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

別表1

1 形式

- (1) 表題・副題の適切さ
- (2) 章・節等の全体構成の適切さ
- (3) 原稿枚数の適切さ
- (4) 投稿区分の妥当性

2 内容

- (1) 素材及び資料の妥当性、提示方法
- (2) 論理展開の明確さ
- (3) 内容の正確さ、完成度
- (4) 結論の提示方法

3 図表等

- (1) 図表の必要性
- (2) 図表の作成、説明の適切さ

4 文献

- (1) 参考文献の妥当性、引用の適切さ

5 表現

- (1) 文章の表現力、読みやすさ

別表2

1 掲載可（再審査不要）

- (1) このままで掲載可
- (2) 指摘箇所訂正後に可

2 修正後再審査

- (1) 書き直し後に再審査
- (2) 投稿区分の変更を必要とする

3 掲載否

- (1) 既発表部分が多い
- (2) 「松戸市立博物館紀要」として不適當
- (3) 内容不可

4 判定不能

- (1) 一部他分野の専門家の判断を必要とする
- (2) その他

職員名簿（令和7年4月1日現在）

館長（非常勤）	渡辺 尚志
次長	染野 寿郎
館長補佐	加藤 尚美
主査	石渡 範子
主任主事	長谷奈緒子
主査・学芸員	富澤 達三
主任主事・学芸員	西村 広経
主任主事・学芸員	米村 創
主事・学芸員	林 幸太郎
再任用・学芸員	中山 文人
再任用・学芸員	青木 俊也

人事異動

〈令和7年4月1日〉

転出：主査	藤原 哲
主事	齋藤 美伽
転入：主任主事	長谷奈緒子

松戸市立博物館年報 第33号

発行日 令和8年9月1日

編集・発行 松戸市立博物館

〒270-2252

千葉県松戸市千駄堀 671 番地

電話番号 047-384-8181（代表）

https://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/

組版 株式会社 アキハマ・ブレーンズ・コミュニティー

Printed in Japan ©2026 MATSUDO MUSEUM

